

《上尾特別支援学校の活性化・特色化方針》
(令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	知的障害	学部・学科	小学部・中学部・高等部	児童生徒数	(男)122 (女) 61	計 183 人
ホームページ	http://www.ageo-sh.spec.ed.jp/ ＜QRコード＞ 					
アクセス	JR上尾駅より徒歩25分					
教育課程等の 特徴	・児童生徒一人一人の障害特性を踏まえた教育を行っています。 ・高等部は、生徒の課題別に将来の生活を見越して、教育課程を3つに分け、一人一人に合った教育活動を行っています。 ※職業生活課程、社会生活課程、日常生活課程					
特色ある学校 行事や部活動	・中学部は金曜日、高等部（夏休みなど）に部活動があります。 ・運動会は紅組と白組に分かれて対抗形式で実施しています。（本年度中止） ・文化祭は全校一丸となってステージ発表や催し物の実施に取り組んでいます。 ・校外学習（社会体験学習、職場体験、校外宿泊学習、修学旅行）は、学部・学年で段階的に行い、社会性や経験の積み重ねを重視して実施しています。					
家庭・地域との 連携	・月例学校公開を年間8回実施する他、全学部を対象とした学校公開を年2回と学部別学校公開を各学部1回ずつ実施しています。 ・上尾市内の小学校と年4回、中学校と年3回、高等学校と年1回の交流及び共同学習を実施しています。 ・上尾市合同作品展に参加し、児童生徒の作品を出展しています。 ・「職業教育フェア」などで高等部作業製品の頒布活動を行い、「埼玉県高齢者・障害者ワークフェア」では高等部作業製品の展示を行っています。 ・PTA主催の「夏祭り」（7月土曜日）、「お楽しみ会」（12月土曜日）を実施しています。 ・地域事業所が文化祭に参加し、販売活動を行っています。					
進路について	高等部 企業就職は2割、施設などの利用が8割となっています。 【企業就労】 清掃業、調理補助（食器洗浄等）、店舗小売業（品出し、接客等）、流通業（コンテナの洗浄等）、物流業（商品等の仕分け）など 【福祉的就労】 上尾市、桶川市、さいたま市、鴻巣市の福祉施設を利用 小学部・中学部 児童生徒は、それぞれ中学部・高等部へ進学しています。					

（※児童生徒数：R2.5.1 現在、進路は R2.3 卒業生の状況）

お知らせ 活動や行事等は令和2年度当初の計画です。



本校の特色

- ◇上尾市（一部地域を除く）、桶川市の2市を学区とする知的障害特別支援学校
- ◇高等部教育課程複数化に伴い、学習集団編成、教材の工夫等、児童生徒一人一人の特性に応じた教育を実践
- ◇各学部で近隣の小学校、中学校、高等学校との交流学习を実施

目指す学校像
キャリア教育を推進し、
豊かに生きる力を育てる学校

学校教育目標
自立に向けた確かな力
～わかる・できる・つながる・ひらく～

【進路に関する学習】

＜＜中学部＞＞

- ・職場見学（2・3年）



＜＜高等部＞＞

- ・職場見学・校内実習
- ・産業現場等における実習（2・3年）

高等部

- ・高等部では生徒の実態に応じた「学習内容」や「学び方」により、3つの教育課程に分かれています。

職業生活課程

自ら判断して行動し、社会的自立を目指す

社会生活課程

社会生活への適応能力の獲得を目指す

日常生活課程

身辺自立、情緒の安定を目指す

- ・進路にあたっては、生徒本人の希望や特性に応じ現場実習や職業学習に取り組み、決定します。
- ・あいさつ・返事、報告・連絡・相談、時間を意識した行動など、卒業後に必要な態度の育成に力を入れ取り組んでいます。

中学部

- ・中学部では小学部で培った力の定着を図り、卒業後の生活を見据えた教育内容に取り組みます。
- ・将来に備え、作業学習に取り組み、集団の中で自らの役割を意識し、他者のために活動する力を養います。

小学部

- ・小学部低学年では、日常生活の指導を充実させ、自分の身のまわりのことができる力を身につけます。
- ・小学部高学年では、係活動や当番、お手伝い等を通して、他者を受け入れ集団で行動する力を養います。

- 1年 社会体験学習（交通機関利用等）
校外宿泊学習（1泊2日）
- 2年 社会体験学習（交通機関利用等）
校外宿泊学習（1泊2日）
- 3年 社会体験学習（交通機関利用等）
修学旅行（1泊2日）

【支援籍学習】

- ・実施希望者の特性に応じた授業内容を居住地校と相談の上実施し、交流を深めています。



《上尾かしの木特別支援学校の活性化・特色化方針》
(令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	知的障害	学部・学科	小学部 中学部 高等部	児童生徒数	(男)259 (女)101	計 360
ホームページ	http://www.kashinoki-sh.spec.ed.jp					
アクセス	JR 上尾駅東口よりバス 10 分 または ニューシャトル志久駅より徒歩 20 分					
教育課程等の特徴	「かしの木学習プログラム」を基に学習を展開。自立活動の授業を重視。 小学部 重複と一般の2種類 クラスを超えた課題別グループ編成での学習有 中学部 重複と一般の2種類 クラスを超えた課題別グループ編成での学習有 高等部 1年生は重複と一般の2種類 クラスを超えた課題別グループ編成での学習有 2年生から、生徒が力を最大限発揮できるよう一般に3つの課程を用意。					
特色ある学校行事や部活動	遠足（小・中） 社会体験学習（小・中・高） 職場見学（高） 校外宿泊学習（小4・小5・中2・高2） 修学旅行（小6・中3・高3） 運動会（6月） かしの木祭（11月・一般公開日には、児童生徒の発表・展示・製品販売を実施） 持久走大会（中・高）					
家庭・地域との連携	伊奈町立小室小学校との小学部学校間交流 伊奈町立南中学校との中学部学校間交流 県立上尾南高等学校との高等部学校間交流 土曜参観（6月）・給食試食会（10月）・フリー参観（10月）・学校公開（11月）					
進路について	社会に出てからの生活を念頭に、段階的な指導を行っている。 事業所合同説明会を実施し、生徒の卒業後の進路確保を図っている。 【卒業生の進路状況】（令和元年度卒業生49名） 一般就労（企業他）6 進学0 福祉就労（通所福祉事業所他）41 その他2					

（※児童生徒数：R2.5.1 現在、進路は R2.3 卒業生の実績）



どんぐり から かしの木 へ

本校の校章には、どんぐりと3枚の葉が描かれています。

3枚の葉は小学部・中学部・高等部を表しています。

3つの学部がある本校で、仲間と仲良く元気に生活している児童生徒の様子をイメージしたデザインです。

【 本校の教育目標 】

「わかる」こと「できる」ことを広げ、ひとりだちする力を育む

どんぐりが葉に抱かれながら芽を出して、枝葉を広げ背丈を伸ばす。

幹も太く力強さを増しながら、木々は寄り添い森となる。

かしの木の森の中で成長して輝きを増し、根を張って強く生きる樹となる。

本校に入学した子どもたちは、どんぐりがかしの木へ成長するように、

それぞれにあわせた速度で、それぞれに合った目標で力を伸ばします。

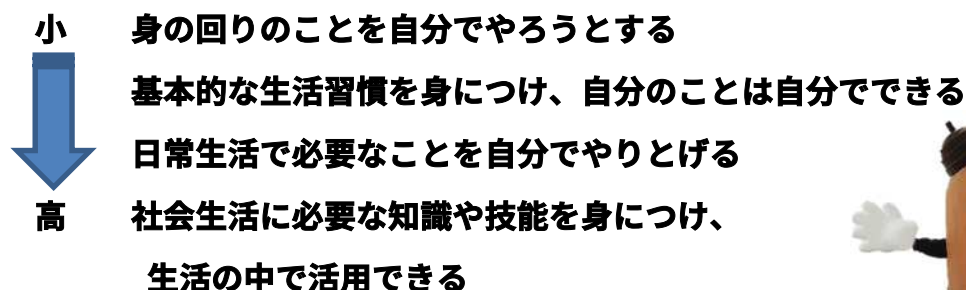
わかること できること をたくさん増やして、社会での生活を見据え、

たくましさを身につけて卒業することを目指しています。

それぞれの成長段階に応じて、学部の目標も段階を追って成長させています。

例えば、「自立」について

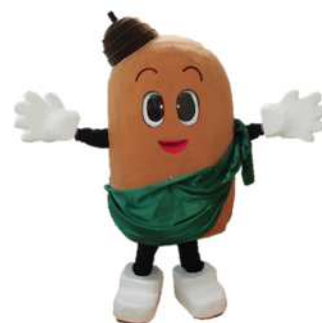
次のように段階的に目標を設定しています。



一步一步の幅も、歩む速度もそれぞれ違います。

卒業後の安心できる居場所につなぎ、

生涯続けられる楽しみを見つけられるように・・・



上尾かしの木特別支援学校の
キャラクター「かっしー!!」

《入間わかくさ高等特別支援学校の活性化・特色化方針》
(令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	知的障害	学部・学科	高等部単独校 普通科と職業学科を併設	生徒数	(普通科) 167 (職業学科) 159	計 326
ホームページ	http://www.wakakusa-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	西武池袋線入間市駅より「三井アウトレットパーク」行バス 「人事院研修所前」下車徒歩3分					
教育課程等の特徴	○生徒一人一人の「自立と社会参加」の実現のため、個々の特性を十分に踏まえた、丁寧な指導が実践できる教育課程の編成。 ・普通科：生徒一人一人の学びを大切にするための3つの教育課程を設置 (「生活」・「基礎」・「実践」) ・職業学科：社会人として必要な働く意欲・態度・技術等を育成。 2つの各学科には3つのコースを設置。 生産技術科 (食品衛生コース、農園芸コース、服飾デザインコース) 流通・サービス科 (流通コース、接客サービスコース、メンテナンスコース)					
特色ある 学校行事や 部活動	○グローバルな人材育成を目指し、多様な人々と交流をはかるカジュアル国際交流。 (年間を通して数回、クラス単位から全校で取り組む) ○部活動は、運動部・文化部ともに充実しており、実績を残しつつある。 ・平成29年度埼玉県特体連陸上競技大会で、「普通科の部」総合準優勝 ・平成30年度埼玉県特体連バスケットボール大会で、「普通科女子の部」3位 ・平成30年度埼玉県特体連陸上競技大会で職業学科が「高等学園の部」総合優勝。 ・令和元年度全国障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会」で職業学科から卓球種目埼玉県代表選出 ・令和元年度彩の国ふれあいピック春季大会卓球種目第3位 ・令和元年度彩の国ふれあいピックサッカー大会 優勝 ・音楽部が埼玉県合唱コンクールに特別支援学校として初めて出場し、優良賞受賞。 ○普通科・職業学科が一丸となって取り組む体育祭、文化祭「緑明祭」、生徒会活動。					
家庭・地域との連携	・近隣の小学校や中学校、高等学校等での清掃活動。 ・近隣高等学校への出張製品頒布。 ・合同練習など、近隣高等学校との部活動交流。 ・近隣事業所（保育園、市給食センター等）で清掃、草取り、各種作業を実施。					
進路について	生徒一人一人に応じた丁寧な進路指導 ○普通科：一般就労4% 通所施設81% 入所施設4% 進学4% 未定7% 進路先：スリーボンドパートナーズ株式会社、株式会社リクルートスタッフィングクラブツ狭山事業所、おおり、多機能型支援施設みのり、ぽかぽかハート・ヴィレッジ、むさしの日高作業所、はあもにい、就労支援 Jast、パン工房モナモナ東久留米店、株式会社ゆたかカレッジ高田馬場、国立職業リハビリテーションセンター、東京障害者職業能力開発校 他 ・個々の様々なニーズに応じた進路の実現に取り組んでいる。 ○職業学科：一般就労75% 通所施設16% 進学2% 未定3% 在家庭2% 進路先：セブン・イレブン・ジャパン株式会社、コニカミノルタウイズユー株式会社、株式会社舞浜コーポレーション、株式会社ビックカメラ池袋本部、株式会社西友サービス、A S K U L L O G I S T 株式会社日高物流センター、日通埼玉運輸株式会社アマゾン川越営業所、スリーボンドパートナーズ株式会社、株式会社アドバンス、株式会社ツバキサポートセンター埼玉事業所、未来工房南浦和西口、ゆたかカレッジさいたまキャンパス、東京障害者職業能力開発校 他 ・進路先の業種は多岐に渡り、地域も埼玉県内に限らず、東京都内や多摩地区などにも及んでいる。一般就労者の中には、少ないながら正社員雇用となったケースもある。					

(※生徒数：R2.5.1 現在、進路は R2.3 月卒業生の実績値)

入間わかくさ高等特別支援学校（知的障害：高等部単独校）

目指す生徒像

生徒一人一人、
今、すでに、
どこが輝いているかを
見つけます。

- ア 自分の力や特性を自覚し、さらなる学びに挑戦する生徒
- イ 自治意識を持ち、自分で考え、自分で発信できる生徒
- ウ 学び続け、働き続ける意欲と力を持った生徒
- エ 仲間と協力して学び合うことができる生徒

学校教育目標

「私たちはもっと輝く。力強く社会へ。」
自らの力と特性を自覚し、生徒同士で高め合い、
地域の中で自分らしく自立と社会参加を実現できる人を育成する。

輝いているところ、
得意なことは、
さらに伸ばします。
こうすれば（こんな支援があれば）
できるを、増やします。

目指す学校像

- ・生徒一人一人の「自立と社会参加」を実現する学校
- ・生徒一人一人の特性を十分に踏まえた、丁寧な指導を実践する学校
- ・地域における共生社会づくりの推進拠点となる学校

	普通科		職業学科	
	一人一人の学びを大切にするための 三つの教育課程 「生活」「基礎」「実践」		生産技術科	流通・サービス科
1 年 生	- 様々な「作業学習」（火・木） 木工、陶芸、紙工芸、織物、ハーブ レザークラフト、農作業、園芸 「国語」「数学」「情報」 「外国語」「自立活動」等		合同の学習 体育祭 文化祭 生徒会 など	合同の学習 体育祭 文化祭 生徒会 など
2 年 生	校外宿泊学習 現場実習 校外宿泊学習		部活動 普通科 球技部 レク（レクリエーション）部 職業学科 バスケット 陸上、テニス、卓球、 音楽、美術・家庭 PC・鉄道、書道部	現場実習 1つのコースで学習します。 現場実習 1つのコースで学習します。
3 年 生	現場実習 修学旅行		現場実習 修学旅行	現場実習 修学旅行

現場実習をはじめ、
学校周辺や近隣事業
所の清掃・草取等、
学校外での学びも
大切にします

生徒一人一人の「自立と社会参加」を目指します。

《浦和特別支援学校の活性化・特色化方針》
(令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	知的障害	学部・学科	小・中・高等部	児童生徒数	(男)173 (女)87	計 260
ホームページ	http://www.urawa-sh.spec.ed.jp					 浦和特別支援学校HP http://www.urawa-sh.spec.ed.jp
アクセス	JR 浦和駅 または JR・埼玉高速鉄道 東川口駅よりバス 浦和特別支援学校前 下車徒歩 3 分					
教育課程等の特徴	※学部間の系統性を踏まえた教育活動の充実に取り組んでいます。 (小学部) ・生活面では、日常生活に必要な基礎的な力の育成に取り組んでいます。 ・学習面では、教員や友だちとの関わりの中でコミュニケーションの力を伸ばすことも大きなねらいとしています。 ・自立活動は、興味を持って楽しみながら取り組めるような活動を中心に設定し、一人一人のニーズに応じた指導を行っています。 (中学部) ・小学部で学んだ基礎的な力を生活に応用し、社会参加に必要な知識・技能を、国語・数学・美術や生活単元学習などで学び、家庭での生活の充実や、行事の積極的な参加につなげます。 ・朝の運動や体育の授業では、実態別に分かれた学年縦割りの集団で学習しています。身体の適切な使い方や持久力、協調性を身につけ、運動することの楽しさや意欲を高めることをねらいとして取り組んでいます。 ・自立活動では、個々の生徒の課題に応じて活動を設定しています。コミュニケーション力、身体の調整力や見る力、心理的な安定、集団でのルールを理解して行動する力等をねらいとして、学習を展開しています。 (高等部) ・「生活や労働に主体的に取り組み、仲間とともに、健康で文化的に生きる力をもった青年」を教育目標にしています。 ・平成28年度より、生徒の実態に合った学習の場を考え、3つの教育課程を編成しています。 ・進路決定にあたっては、1年生は「知る」、2年生は「考える」、3年生は「決める」と段階を踏んで取り組んでいます。					
特色ある学校行事や部活動	運動会や文化祭は小学部から高等部まで全校で取り組んでいます。 小4～高3は校外宿泊学習または、修学旅行があります。 高等部では部活動を行っています。種目は、サッカー、バスケットボール、陸上、水泳です。県内の特別支援学校対抗の陸上大会、サッカー大会、バスケットボール大会のほか、ふれあいピックなどにも参加しています。また、水泳は、例年8月の記録会に参加しています。					
家庭・地域との連携	保護者対象の授業参観のほか、就学・入学をお考えの方や、地域の方、関係者向けの見学会を年6回実施します。施設・企業の方向けの公開や見学会も行っています。 学校間交流は、地域の小学校・中学校・高校それぞれと活発に行っています。高等部と県立高校との交流は21年を迎えました。 キャリア教育の一環として、地域の保育園に高等部作業班製作の木工製品を寄贈したり、近隣施設への出張カフェ、地域の企業への名刺納品などにも取り組んできました。また、職業教育フェアでの物品販売や浦和まつりにも参加をしています。					
進路について	高等部卒業後の進路先としては企業就労や福祉的就労があります。 【企業就労】サービス業（レストラン）、流通業、清掃等、事務、製造業。 【福祉的就労】さいたま市、蕨市、川口市の福祉施設を利用。 小学部、中学部の児童生徒はそれぞれ、中学部、高等部に進学します。					

(※児童生徒数：R2.5.1 現在、進路は R2.3 卒業生の実績)

2 育成方針（埼玉県立浦和特別支援学校 ～児童生徒の成長物語～）

浦和特別支援学校 学校教育目標「明るく、仲良く、学ぶ 浦和っ子」

小学部低学年



のびのびと元気な児童
自分の気持ちを伝える児童
いきいきと学ぶ児童

小学部高学年



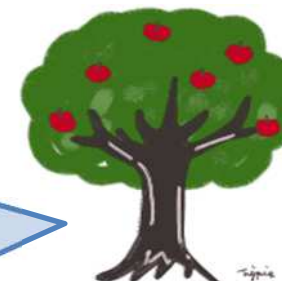
元気で楽しく生活する児童
大人や友達と仲良く遊べる児童
自分で考え、行動する児童

中学部



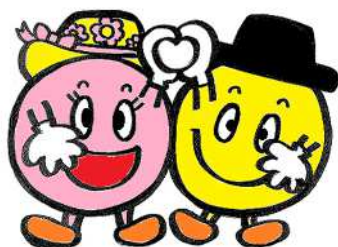
健康で逞しい生徒
友達と仲良くする生徒
よく考える生徒

高等部



健康で文化的に生きる力を持った生徒
様々な集団の中で協力し、高め合える生徒
生活や働くことに主体的に取り組める生徒

学部間の系統性を踏まえた指導の充実



浦和特支のマスコット
はっぴーちゃんとげんきくん



運動会



げんき祭り
(文化祭)

食育

- ・季節感のある給食
- ・「リクエスト献立」
- ・「言語聴覚士と連携した献立」
ほか

支援籍学習

居住地の小、中学校との支援籍学習（交流及び共同学習）を希望者に実施しています（R2 18名）

センター的機能

さいたま市特別支援ネットワークと連携し、地域の特別支援センターとしてコーディネーター等による巡回、支援を行っています。

保健指導

- ・肥満防止指導「すくすく教室」
- ・歯科衛生士による「はみがき教室」
- ・助産師による「性に関する指導」 ほか

進路指導

高等部では企業や福祉施設と連携して2、3年生で現場実習を行っています。
2年生では「自分に合った進路先を考える」
3年生では「卒業後の進路先を決定する」ことをねらいとし、年2回程度、1回につき3日間～10日間行います。

様式

＜大宮北特別支援学校の活性化・特色化方針＞
(令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	知的障害	学部・学科	小学部・中学部・高等部	児童生徒数	(男)202 (女)99	計 301
ホームページ	http://www.kitayou-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	JR 大宮駅西口よりバス（約25分）バス停「運輸支局」下車 徒歩約10分					
教育課程等の特徴	・教育内容表を活用した小中高の一貫性・系統性・発展性のある教育活動の展開 ・児童生徒の輝きや自立を育てる自立活動、わかる・できる・楽しい授業の実践 ・将来の自立した社会生活を目指したキャリア教育、職業教育の充実 ・作業学習の充実・・中学部（農業班・陶芸班・木工班・手工芸班・紙工班） 中学部（農業班・陶芸班・木工班・手工芸班・紙工班） 高等部（農業班・窯業班・木工班・縫製班・紙工班・園芸班・手工芸班・リサイクル班）					
特色ある学校行事や部活動	・本校とさいたま西分校で一緒に行う運動会、文化祭「北陽祭」 ・小中高での生活年齢を踏まえた実際的な生活経験「社会体験学習」の実施 ・高等部の部活動（陸上部・サッカー部・音楽部・美術部・家庭部）					
家庭・地域との連携	・指扇北小学校、指扇中学校との交流や、交流及び共同学習（支援籍学習）の実施 ・福祉、教育、行政、医療などと児童生徒の学びや育ちを支えるネットワークの構築 ・幼保小中高などの支援及び就学前施設など関係機関研修会の実施 ・就学前施設、保護者、地域、企業・福祉事業所向け学校公開の実施					
進路について	・働く力、働く意欲を高める作業学習、校内実習及び現場実習の実施 ・定着促進のためのアフターケアの充実 ・高等部の卒業生の進路は、おおそ進学・企業就労2割、福祉就労8割 ・PTA進路対策部との連携協力及び毎月の進路だよりの発行 ・就労支援アドバイザーによる生徒支援、保護者進路講演会や教職員の研修会の実施					

(※児童生徒数：R2.5.1 現在、進路は R2.3 卒業生の状況)

●児童生徒一人一人が、持てる力を最大限に発揮し、より自立的・主体的に活動し生活する力を育みます。

「本校の2つの約束」

①「わかるできる楽しい授業を実践します。」

子どもたちのよさや可能性が発揮されるよう、やることが分かり、できた手ごたえを感じる授業、意欲や自信が膨らむ授業づくりを実践しています。進んで教材研究を行い、教職員の英知を結集して授業に取り組んでいます。

②「笑顔（愛顔）いっぱいの学校にします。」

明るく元気なあいさつを交わし、学校全体が明るく和やかな雰囲気子どもが落ち着いて、学習等に意欲的に取り組めるようにしています。

「小学部の目標」

人との関わりを豊かにする中で伝え合う力を伸ばし、いろいろな活動を楽しみ、自発的に行動できるようにします。



「中学部の目標」

小学部・小学校の教育成果を生かし、「自主・自立」の態度の確立を図り、生活するための基礎能力を養います。



「高等部の目標」

義務教育段階の教育成果を受け、本校の教育目標の達成を図るとともに、自己を確立し、社会への参加を目指します。



**目標：自立と社会参加
を目指します！**

《大宮北特別支援学校さいたま西分校の活性化・特色化方針》
(令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	知的障害	学部・学科	高等部	児童生徒数	(男) 28 (女) 18	計 46
ホームページ	http://www.kitayou-sh.spec.ed.jp/comm2/					
アクセス	J R川越線指扇駅下車 徒歩15分 大宮駅西口④番乗り場(西武バス)～西遊馬(にしあすま)停留所下車 徒歩10分					
教育課程等の特徴	○職業教育の充実(週11時間)。 ○地域の教育力(社会人特別非常勤講師など)を活用した授業を展開しています。					
特色ある学校行事や部活動	○大宮武蔵野高等学校との交流 ・高校対面式・体育祭・文化祭・マラソン大会・スポーツ大会・薬物乱用防止教室避難訓練 ・さいたま西分校の授業(職業)に大宮武蔵野高等学校の生徒が参加  大宮武蔵野高校の体育祭・文化祭などに参加しています。  体験交流で大宮武蔵野高校の生徒がさいたま西分校の【職業】の授業に参加しています。 ○部活動 ・運動部・・・陸上部、男子球技部、女子球技部 ・文化部・・・音楽部、美術部					
家庭・地域との連携	○学校公開を年3回実施。 ○県立大宮武蔵野高等学校との交流及び共同学習。 ○馬宮公民館文化祭への作品出展。 ○地域の老人会との交流(グラウンドゴルフ)。  地域の老人会との交流でグラウンドゴルフを行っています。					
進路について	○進路状況(令和元年度) 就労 12名 就労移行支援施設 3名 ○進路先(令和元年度) 食料品スーパー、小売販売、パソコン使用を中心とした事務、庶務的な仕事を中心とした業務、流通センター、工場内における検品・分解作業、サービス業など					

(※児童生徒数：R2.5.1現在、進路はR2.3卒業生の実績)

2 育成方針（生徒の成長物語）

県立大宮北特別支援学校 さいたま西分校 ～生徒の成長物語～

本校の 特 色

本校の教育目標
教育内容の特色
地域との連携

社会の一員として、豊かな人間性を備えた生徒の育成
多様な「職業」教育を通じて「働く力」を育てます
地域交流及び地域貢献に積極的に取り組んでいます

交流及び共同学習

大宮北特別支援学校との交流

○運動会・文化祭

大宮武蔵野高校との交流

○高校対面式・体育祭・文化祭

マラソン大会・スポーツ大会

避難訓練・薬物乱用防止教室

○さいたま西分校の授業（職業）
に大宮武蔵野 高校の生徒が
参加

産業現場等における実習

○目的

①社会人として要求される生活習慣

②円滑な人間関係

③働くことへの意欲、理解、態度

④健康と安全への理解

⑤能力、適性の把握

第3学年

社会人としての心構えや態度、
働く力の定着を図る。

第2学年

社会や集団の一員としての在り
方を学び社会性を高める。

個に応じた支援・指導

○個別の教育支援計画、個
別の指導計画を作成し一
人ひとりの生徒に合わせ
た指導を行っています。

○個別面談（年4回）を実
施し、保護者と共通理解
を図り指導しています。

目指す生徒像

- 基本的生活習慣を身につけ、人とのコミュニケーションがとれる生徒
- 自分のことだけではなく、集団の一員として活動できる生徒
- 学習や運動に粘り強く取り組む生徒

育てる力

- 表現力・理解力
- 健康・体力
- 生活態度
- 生活力
- 就労意識・意欲

第1学年

学級集団の仲を深め、集団の中
で自己の役割を理解しながら個
性を発揮する。

地域との連携

- 地元老人会との交流（グラウンドゴルフ）
- 地域清掃

大宮北特別支援学校さいたま西分校は、働く力を育てます



1 学校基本情報

種別	聴覚障害	学部・学科	幼・小・中・高・専	児童生徒数	(男) 102 (女) 73	計 175
ホームページ	http://www.ohmiya-sd.spec.ed.jp/					
アクセス	JR 宇都宮線土呂駅下車徒歩7分					
教育課程等の特徴	聴覚障害などの障害特性を踏まえた教育を実践。高等部本科は普通科、産業工芸科、生活デザイン科を設け、専攻科は情報・デザイン科（情報ビジネスコース、技能実習コース）を設けている。その他、支援籍学習、乳幼児教育相談など、関係諸機関、地域との連携に努めている。					
特色ある学校行事や部活動	・ 幼小中高と様々な行事があり、運動会、のぼら祭、マラソン大会などを実施している。 ・ 部活動は野球部、バレー部、卓球部、陸上部、美術部があり、中高共同で活動している。 ・ 野球部は関東聾学校野球大会で準優勝、卓球部は2年連続全国聾学校卓球大会に出場し女子は優勝（二連覇）をしている。					
家庭・地域との連携	・ 学校公開・授業見学会・進路関係者向け学校公開各1回 難聴乳幼児諸機関担当者会3回 ・ 坂戸ろう学園との交流、支援籍学習や交流及び共同学習を実施している。 ・ 年1回ののぼら祭を開催し、地域との交流に努めている。					
進路について	幼稚部・小学部・中学部は内部進学もしくは外部進学している。高等部本科では、大学や専攻科への進学と就職に二分されている。ろう重複は福祉的就労など、専攻科では企業就労100%（製造業や事務職）を目指している。					

(※幼児児童生徒数：R2.5.1現在)

本校の魅力！

幼児児童生徒一人一人の発達段階や将来像に合わせた適切な指導及び合理的配慮の実施、部活動を通して豊かな人間形成を図り、放課後補習や課外研究で自ら学ぶことによって最大限能力を発揮しようとする児童生徒の育成

- ・ 聴覚障害の特性に応じた一人一人の実態に応じた「個別的教育支援計画・個別の指導計画」に基づき、集団による教育実践、個別対応の支援を行います。
- ・ 卒業後の進路を見据えて、中学部、高等部の進路指導の一環として産業現場等における実習を行います。
- ・ 進路を考える上で、聴覚障害のある職員が当事者として様々な相談にのってくれます。
- ・ 学校内では共通コミュニケーションとして手話を使っており、幼児児童生徒にとって分かりやすい授業づくりに取り組んでいます。
- ・ すべての授業の中で日本語指導への意識を高め、日本語習得のために日々研究しています。

(普段の様子)

(運動会)

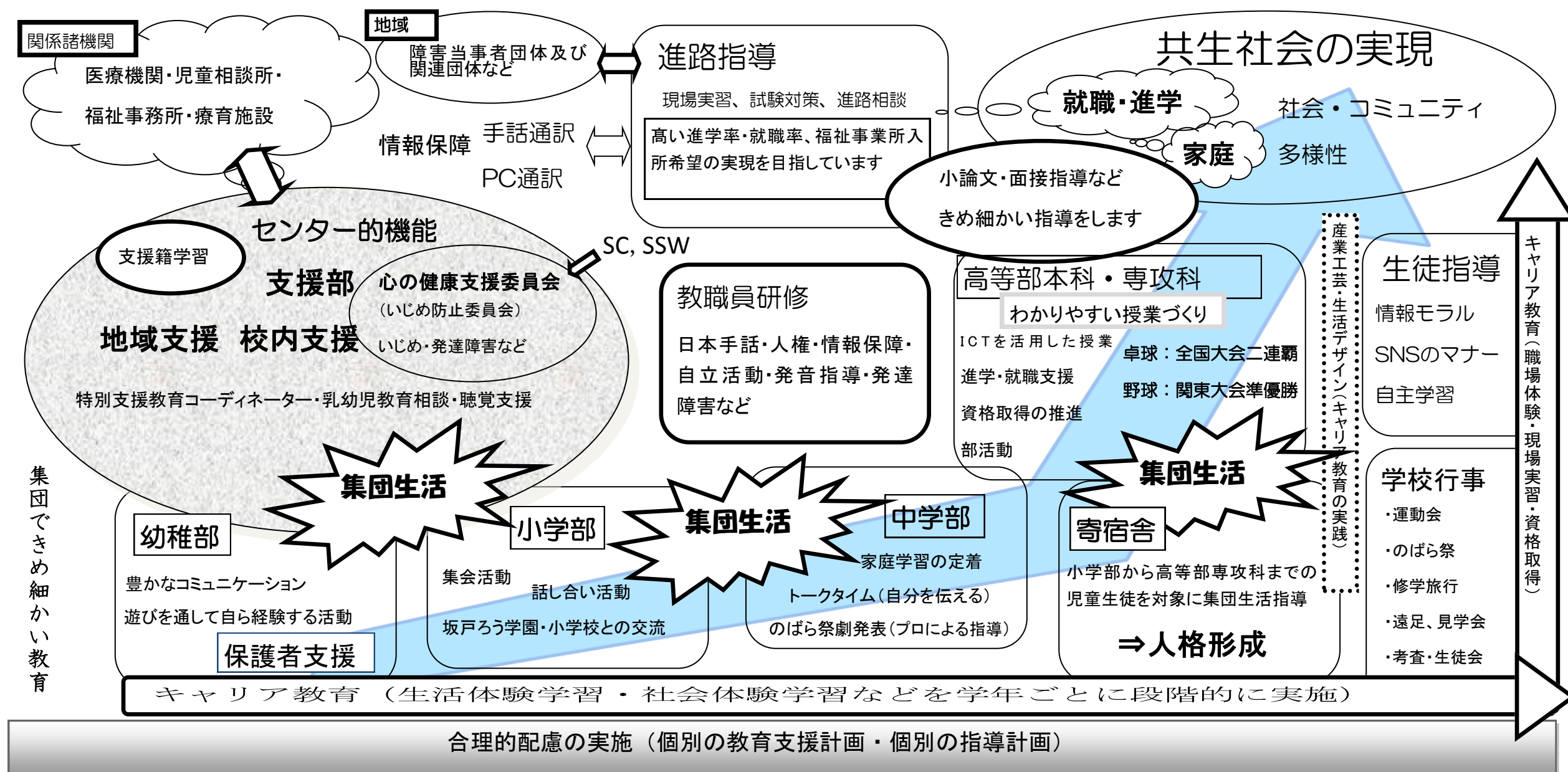
(のぼら祭)



すべての幼児児童生徒が「わかる授業」を受けられるように努めます！！
コミュニケーションの楽しさを享受できるように環境作りに励みます！！

本校の 特 色

- ◇学校教育目標 自分の良さを伸ばし、一人一人が輝く
- ◇本校の教育方針 ①言語教育の充実 ②基礎基本の重視 ③生活指導の充実 ④健康・安全教育の充実 ⑤保護者・関係諸機関との連携 ⑥教育環境の整備 ⑦教職員の研究・研修の充実
- ◇地域との連携 医療・療育・福祉機関との連携充実と、聴覚障害教育への興味関心を一層高めるための情報発信の充実



手話をはじめとする多様なコミュニケーション手段を活用します！日本語の指導に力を入れています！保護者支援も行っています！

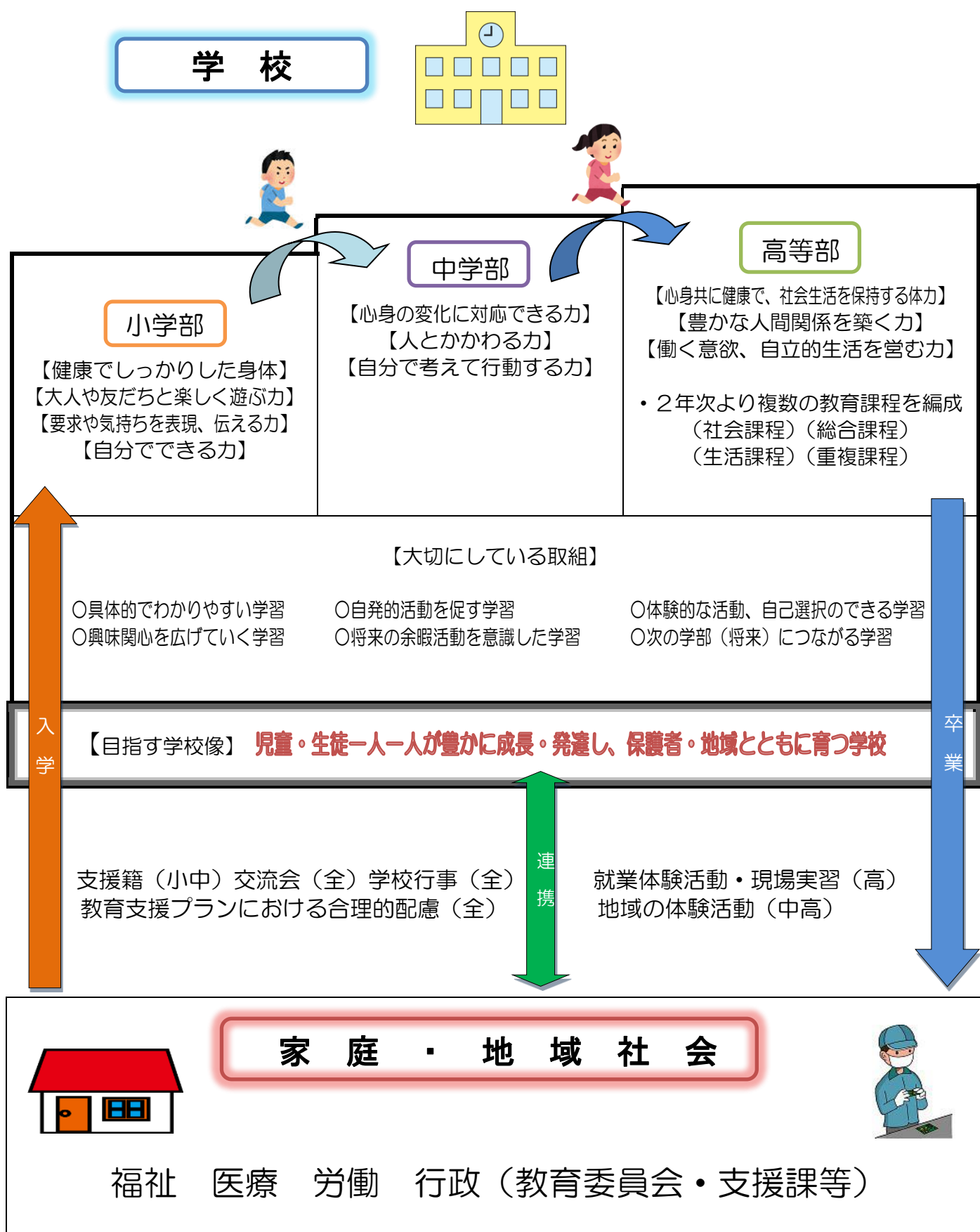
《春日部特別支援学校の活性化・特色化方針》
(令和３年度～)

1 学校基本情報

種別	知的障害	学部・学科	小・中・高等部	児童生徒数	(男) 235 (女) 114	計 349
ホームページ	http://www.kasukabe-sh.spec.ed.jp					
アクセス	東武春日部駅東口より徒歩２０分					
教育課程等の特徴	・どの学部においても時間における「自立活動」を実践し、全校的に公開授業、意見交換等の研修を行っている。 ・高等部は、２年次より生徒の課題別に教育課程を４つに分け、一人一人に応じた学習を行っている。(社会課程、総合課程、生活課程、重複課程)					
特色ある学校行事や部活動	・運動会、文化祭（春輝祭^{はるきらまつり}）は、児童生徒の実行委員会の活動を中心に、全校一丸で日頃の学習成果を保護者・地域に向けて発表している。 ・宿泊学習、社会体験学習などを通して、生活経験の拡大を目指している。 ・高等部は部活動があり、サッカー部やバスケットボール部は特に力を入れて活動している。					
家庭・地域との連携	・各学部とも地域の学校との交流会を継続的かつ定期的に行っている。 ・高等部の「社会課程」では、地域企業での職業体験を実施、「総合課程」では、校内で事務、清掃などの仕事を体験する職業体験を実施している。 ・就学、入学に向けた学校公開を年２回、地域対象の一般公開を１回、企業や福祉施設対象の公開を年３回実施している。 ・PTA活動の地域連携として、近隣の小・中学校５校と連絡会を持ち、PTAの情報交換を進めることで各学校間の相互理解を深め共生社会の構築を図っている。 ・春日部東高校との部活動交流を実施(予定) ・共栄大学との交流を実施(予定)					
進路について	・進路状況として、企業就労は約２～３割、福祉サービスへの通所が７～８割である。企業就労は、物流、清掃、介護施設など多岐にわたり、福祉サービスでは就労継続支援Ｂ型、生活介護への通所が多い。これら進路決定に向けて高等部３年間で計５回の現場実習を実施し、一部の生徒については校内・校外で職業体験を実施している。					

(※生徒数：R2.5.1現在、進路はR2.3卒業生の実績)

2 育成方針（埼玉県立春日部特別支援学校 ～児童生徒の成長物語～）



様式

《埼玉県立川口特別支援学校の活性化・特色化方針》
(令和２年度～)

1 学校基本情報

種別	知的障害	学部・学科	小学部・中学部・高等部	児童生徒数	(男) 220 (女) 89	計 309
ホームページ	http://www.kawaguchi-sh.spec.ed.jp					
アクセス	ＪＲ川口駅より国際興業バス「サンテピア」下車徒歩１分 ＪＲ西川口駅・蕨駅より国際興業バス「鳩ヶ谷本町１丁目」下車徒歩１５分					
教育課程等の特徴	・児童生徒個々の障害特性を踏まえた教育内容。 ・一人一人の主体的な学びと人との関わりを大切にした学習内容。					
特色ある学校行事や部活動	・高等部にダンス部、運動部、陸上部、球技部があり、各種大会等に出場しています。 ・全校一丸となって取り組む運動会、文化祭（令和２年度は中止）。 ・宿泊学習、社会体験学習、林間学校、修学旅行などを通して、経験の拡大を目指しています。					
家庭・地域との連携	・地域関係機関と連携した家庭支援の充実。 ・地域のニーズに対応する特別支援教育のセンター的機能の発揮。 ・支援籍学習の実施。 ・近隣の小中高等学校との交流および共同学習の実施。 ・イオンモール川口前川で作品を展示。 ・土曜参観、授業参観、学校公開の実施。					
進路について	・令和元年度高等部卒業生３７名（進学１名、一般就労６名、福祉的就労２９名、その他１名） ・小学部と中学部の児童・生徒はそれぞれ中学部・高等部へ進学しています。 ・作業学習・校内実習・現場実習など将来を見据えた進路指導をしています。					

（※児童生徒数：令和２年５月１日現在、進路は令和２年３月卒業生の状況）

学校教育目標 『自ら学び 仲間と共に 豊かに生きる』

本校の 特色

- 一人一人の主体的な学びと人との関わりを大切にする学校
 - ・「できた、わかった」を大切に！児童生徒のニーズに応じた授業
 - ・宿泊学習、社会体験学習、林間学校、修学旅行など経験の拡大
 - ・全校一丸となって取り組む運動会、文化祭
- 家庭や地域との連携を生かして、一人一人の豊かな生活を支える学校
 - ・家庭・地域・専門家との連携を生かした校内・校外支援と進路指導
 - ・作業学習・校内実習・現場実習など将来を見据えた進路指導
 - ・緊急時・災害時に備えた安心安全な学校
 - ・「一人一人を大切にする学校づくり宣言」をもとにした、児童生徒一人一人の人権を尊重する教育活動の実践

校章



三羽の鳥
小学部・中学部・高等部
未来に力強く羽ばたく姿
三重の円と星
川口市

小学部目標

- ①自分の要求、意思を人にしっかりと伝える。
- ②意欲を持って精一杯自分の力を出し切り、がんばる。
- ③皆と一緒に活動する楽しさや喜びを感じ、友だちと仲よくする。
- ④生活リズムを整え、毎日元気にすごす。

中学部目標

- ①わかる言葉を増やし、人に気持ちを伝えたり自分の気持ちを調整したりする。
- ②目標を持って自分で取り組み、最後までやりとげる。
- ③ルールを守り、思いやりを持って協力して活動する。
- ④安全や健康への意識を高め、丈夫な身体をつくる。

高等部目標

- ①要求を生み出し、正しく伝え、その実現に向け行動する。
- ②なりたい自分のイメージを持ち、意欲的に目標に向かって頑張る。
- ③仲間を認め合い、共に楽しみ、協力し合う。
- ④自分や人の命を大切にして、健康に生きる。



コバトン＆グッチーくん（本校マスコット）

埼玉県立川口特別支援学校
～ 児童生徒の成長物語 ～
育成方針

様式

《県立川越特別支援学校の活性化・特色化方針》

(令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	知的障害	学部・学科	小・中学部 高等部	児童生徒数	(男)173 (女) 66	計 239
ホームページ	http://www.kawagoe-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	J R川越線南古谷駅より徒歩30分 西武新宿線本川越駅、東武東上線川越駅東口、J R川越線東口より西武バス川越グリーンパーク行き古谷上バス 停車徒歩10分					
教育課程等の特徴	・個々の障害や発達に応じた、持てる能力の開花を積極的に図る教育活動。 ・高等部では、認識・社会性及び将来の進路を見据え、「職業」を3つのグループに分けて実施。一人ひとりに合わせた作業学習を実施。					
特色ある学校行事や部活動	・学部、学年を超えた仲間の中で、協力し合い楽しみながら取り組む運動会。 ・小・中・高のステージ発表やゲーム等で盛り上がる文化祭(かわY O!祭)。 ・特別支援学校陸上競技大会・バスケットボール大会・サッカー大会に、選抜した選手が出場。 ・遠足、宿泊学習、野外体験学習、社会体験学習、交流会、進路見学、産業現場等における実習などを通じた経験領域の拡大。					
家庭・地域との連携	・各学部、学年ごとの授業参観を年1回以上実施 ・11月には全校で土曜授業参観の実施 ・保護者向け進路説明会や施設見学会の実施 ・近隣小学校との交流及び共同学習 ・市内合同学芸会発表					
進路について	・就職は1割、施設などの利用が9割となっている。 【企業就労】サービス業（スーパー・食品の品出し、前出し）、特例子会社（ベッドメイキング、清掃） 【福祉的就労】川越市、坂戸市、鶴ヶ島市、川島町、上尾市、佐山市、さいたま市、志木市の障害者支援施設に就労 - 小学部・中学部の生徒は、それぞれ中学部・高等部へ進学している。					

(※児童生徒数：R2.5.1現在、進路はR2.3卒業生の状況)

本校の魅力！

豊かな学びで児童生徒の可能性を伸ばし、自立と社会参加に向けた生きる力を育み、共生社会の実現に向けて地域と連携する学校



小学部 国語



中学部 調理



高等部 数学



小学部 修学旅行



中学部 社会体験学習



高等部 修学旅行



県立川越特別支援学校～児童生徒の成長物語～

《概要》

- ・昭和47年4月、県下初の知的障害児が通学する県立学校として開校
- ・小学部、中学部、高等部の3つの学部
- ・個々の障害や発達に応じ、持てる能力の育成を図る教育活動
- ・児童生徒は、1市1町からスクールバスや電車、路線バス等を利用して通学
- ・平成20年4月、県立川越初雁高校内に川越たかしな分校（高等部単独）開校
- ・平成21年4月、条例改正により埼玉県立川越特別支援学校に校名変更

《学校行事》

運動会・かわYO!祭は、小学部・中学部・高等部合同で行われます。例年大盛況です。



【小学部】

「自分でやってみよう」
「元気な体をつくろう」
「友だちと楽しくあそぼう」



学校教育目標

かんがえる子 つづける子 つたえあう子

目指す学校像

豊かな学びで児童生徒の可能性を伸ばし、自立と社会参加に向けた生きる力を育み、共生社会の実現に向けて地域と連携する学校

重点目標

- 1 障害特性を踏まえた指導の充実と豊かな学びの実現
- 2 特別支援教育の専門性の発揮と社会に開かれた教育課程の実施
- 3 自立と社会参加に向けたキャリア教育の充実
- 4 尊敬と対話に基づく安心・安全な学校づくり

【中学部】

自分で考え行動する。
健康な心と身体をつくる。
仲間と協力する。



【高等部】

共生社会を目指し、生きる力の基礎を育む
～生涯学習の基、健康で豊かな人生を楽しめる
主体的な青年を目指して～

- a 社会参加に向けた進路の充実
- b 社会に開かれた教育課程の実現
- c 専門的な教科指導
- d 生徒指導の充実



《地域との連携～共生社会の実現に向けて～》

◎地域における理解者・支援者を増やし、児童生徒が卒業後も自身の力を最大限に発揮できる地域づくり

- ・福祉・医療・労働などの関係機関と連携した支援の充実
- ・支援籍学習の拡大と充実
- ・交流及び共同学習(学校間交流)の充実(川越市立古谷小学校、埼玉県立川越総合高校)
- ・小中学校・高等学校教員等への支援・研修協力による障害理解の推進
- ・公開講座・ボランティア講座の充実による地域への情報発信と理解推進
- ・地域の社会福祉協議会との連携・協力

《作業学習》

中学部・高等部には『作業学習』があります。

「農園芸」・「紙工芸」・「手工芸」・「木工」・「陶芸」の5つの作業班で活動しています。作業学習は、実社会につながる学習です。それぞれ専用の特別教室があり、設備内容の充実度は、県内でもトップクラスです。製品は、文化祭などで販売し、大変好評を得ています。



《部活動》

中学部には部活動があります。
運動部・ダンス部・レクリエーション部

《クラブ活動》

高等部で総合的な探求の時間に取り組んでいます。
太鼓部・ダンス部・球技部・運動部
パソコン部・ウォーキング部・芸術部・芸術部
希望者をつのり、特体連の大会に参加しています。

《埼玉県立川越特別支援学校川越たかしな分校の活性化・特色化方針》
(令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	知的障害	学部 学科	高等部 普通科	生徒数	(男) 33 (女) 13	計 46
ホームページ	https://kawagoe-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	東武東上線 新河岸駅から 徒歩 25 分 西武バス(本川越駅・新所沢駅間)中福バス停から徒歩 25 分					
教育課程等 の特徴	50分×6限(金曜日は7限)の授業を週5日実施しています。普通科としての教科学習(国語、数学、英語、社会、理科、情報、保健体育、音楽、美術、家庭等)で、社会生活に必要な基礎学力、体力を育成します。1年生で全分野の基本的な知識や技術、就労に必要な態度を学び、2、3年生では興味・関心や適正、希望職種などに応じて、いくつかの分野を選択し、習熟が図れるようにしています。自立活動では自己理解やコミュニケーションの学習を通して、社会自立に必要な力を身につけます。 令和元年度より、選択科目(保健体育、音楽、美術)を導入し、各自が選択した教科の学習内容を深めると共に、部活動と連鎖させ深化した内容を実践できるようなカリキュラムとしました。					
特色ある 学校行事や 部活動	部活動(運動部、文化部、音楽部)は週2回実施しています。 運動部は主にサッカーを実施。陸上やバドミントン、卓球などを行うこともあります。音楽部はバンド活動でギターやキーボード等の楽器を練習し、文化祭や校内のライブで発表します。文化部は制作活動、自然散策、調理やレクリエーション等幅広く活動します。 特別支援学校の体育大会等(陸上、サッカー、バスケットボール)にも参加します。体育祭、文化祭、マラソン大会等の行事を川越初雁高校と合同で開催します。					
家庭・地域 との連携	・学校公開を年4回実施。 ・校外で、職業(メンテナンス)の実習を実施。 ・生徒居住地域の就労支援センターとの連携。 ・ハローワークとの連携。 ・川越初雁高校との部活動交流。					
進路に ついて	産業現場等における実習を行いながら、進路について考えていきます。標準として1年時に1回(5日間)、2年時に2回(それぞれ10日間)、3年時に2回(それぞれ10日間)実施します。職種や自分の適性等について、進路指導部、担任、保護者と相談しながら進路について考えを深めていきます。毎年8～9割ほどの生徒は、一般企業や特例子会社へ就労しています(障害者雇用)。働くためにトレーニングが必要な場合は、就労移行支援事業や就労継続、職業訓練校等の進路を選択するケースもあります。 令和元年度卒業生(15名)については13名が一般企業や特例子会社へ就労(障害者雇用)。その他、進学1名、リハビリテーションセンター1名となっています。					

(※生徒数：R02.5.1 現在、進路は R02.3 卒業生の状況)

川越特別支援学校 川越たかしな分校

生徒の成長 物語

目指す学校像
生徒の可能性を広げ、未来を
たくましく生きる力を育成する学校

職業学習（たくましく生きる力を育てます）

2 学年
教科・職業・実習の学習を
通して自己の適正を考え
る。

3 学年
教科・職業・実習の学習を
通して自己の進路を決定
する。

教科等の学習（可能性を広げます）

1 学年
教科・職業・実習の学習を
通して、社会人となる基礎
を築く。

3 年 自己の適正に合う進路を決定する

2 年 学びを通して自己の適正を知る

1～3 年 基本的生活習慣・学習習慣・職業人としての基礎を確立する

川越たかしな分校目標

「社会の中で自信を持って共に生きる力を育てる」

重点目標

- ア 社会自立に向けた豊かな学びを実現する
- イ 集団生活のルール・マナーを守り、幅広いコミュニケーションの力を身につけ、未来を「生きる力」を育成する
- ウ 地域と連携した支援体制の確立と一人一人を活かした進路を実現させる
- エ 分校の特性を活かした、社会に開かれた学校づくりを推進する

主な授業

〔職業〕

1 年生：「ビル・メンテナンス」「農園芸」「工芸」「フード・デザイン」を全員が学習。

2・3 年生：「メンテナンス」「農園芸」「木工芸」「手工芸」「食品加工」から2つを選択。

各内容について基本的な知識や技術の習得を図りながら、就労に必要な態度の育成にも重点を置いています。

〔教科〕

国語、数学、英語、社会、理科、情報、保健体育などを学習し、社会生活に必要な基礎学力、体力を育成します。

川越特別支援学校（本校）との交流

☆ 10 月 文化祭

川越初雁高校との交流

☆ 4 月 対面式

☆ 5 月 合同避難訓練

☆ 6 月 体育祭、保健講話

☆ 9 月 文化祭

☆ 11 月 マラソン大会

☆ 12 月 芸術鑑賞会、合同避難訓練

※ 他にも、部活交流や部活参加（一部生徒）の交流もあります。



日課表（第 1 学年例）

時刻	校時/曜日	月	火	水	木	金
8:40	登校	SHR	SHR	SHR	SHR	SHR
8:55	1	保健体育	英語	保健体育	英語	保健体育
9:45	2	美術	社会	理科	社会	国語
9:55						
10:45	3	音楽	情報	数学	数学	職業（ビル）
11:45	4	国語	国語	自立活動	情報	職業（ビル）
11:55						
12:45		昼食・昼休み				
13:30	5	職業（農園芸）	職業（工芸）	職業（フード）	家庭	総合的な探究
14:20						
14:30	6	職業（農園芸）	職業（工芸）	職業（フード）	家庭	LHR
15:20		清掃	SHR	SHR	清掃	選択科目
15:30		SHR			SHR	SHR
15:35			部活動	部活動		
16:30						
16:45						
17:00	最終下校					

道徳の授業は、全体計画に基づき計画的に設定し実施します。

＜川島ひばりが丘特別支援学校の活性化・特色化方針＞
(令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	肢体不自由	学部・学科	小・中・高等部 訪問教育部	児童 生徒数	(男)100名 (女)60名	計 160名
ホームページ	http://www.hibari-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	JR桶川駅もしくは東武東上線川越駅よりバス 「釘無」バス停下車 徒歩5分					
教育課程等 の特徴	○児童生徒一人ひとりにあった、複数の教育課程。 ○一人ひとりの実態に沿った授業内容。 ○2学期制による授業時間の確保。					
特色ある 学校行事や 部活動	○各学部で開催する、活気あふれる運動会・体育祭。 ○児童生徒一人ひとりが活躍する文化祭「ひばり祭」。 ○高等部の生徒が参加するクラブ活動「ひばりクラブ」(スポーツ・音楽表現・リラクセーション) ＊令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、縮小または中止。					
家庭・地域 との連携	○小中高の学部ごとに、近隣の小中高校と交流会を行っている。 ○就学関係者対象の学校説明会を2回、一般対象の学校公開を1回行っている。 ○支援籍学習を小・中あわせて35人(29校)が行っている。(平成31年度) ○公開講座や、PTA主催夏祭りの実施。 ＊令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、縮小または中止。					
進路に ついて	○小学部・中学部児童生徒は、本校中学部・高等部にそれぞれ進学している。 (一般の中学校・高等学校等へ進学する例もある。) ○高等部：就労支援等(14%)・生活介護(71%)・その他(14%) 【施設就労】近隣市町の福祉施設、作業所など。					

(※児童生徒数：R2.5.1現在、進路はH2.3卒業生の状況)

2 育成方針 県立川島ひばりが丘特別支援学校（児童生徒の成長物語）

学校教育目標

- (1) 障害に伴う困難を改善・克服しながら、自ら生活を切り開く意欲や態度を養い、個性ある自己実現を図る。
- (2) 心の優しさやたくましさを養い、豊かで調和のとれた人間性を高める。

目指す学校像

- (1) 将来の自立や社会参加に向け、心豊かに、たくましく生きる力を身につけることのできる学校。
- (2) 保護者や地域、関係諸機関から信頼され、誇れる学校。



重点目標と具体的方策



- (1) 児童生徒一人ひとりの可能性と力を最大限引き出す授業づくり。

- 新型コロナウイルス感染拡大防止への対応及び授業再開時の正常化
- 教員の資質向上
- 教育活動の充実
- ICT 活用

- (2) 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための取組の推進。

- センターの機能の発揮
- 本校及び本校児童生徒に対する理解深化のための取り組み

- (3) 年間を通して児童生徒が健康で安全に学習できる環境づくり。

- 安心安全の維持向上
- 早期発見・早期対応の徹底
- 災害対策

小学部 学部目標

- (1) げんきいっぱい
- (2) ともだちいっぱい
- (3) やるきいっぱい

中学部 学部目標

- (1) すすんで学習に取り組み、生き生きと活動しよう。
- (2) 思いを伝え合い、友だちと仲良くしよう。
- (3) 明るく元気に過ごそう。

高等部 学部目標

- (1) より豊かな人生を送るための生活力や文化を享受する力を身につける。
- (2) 人との関わりや生活経験を広げる中で自己表現力を高める。
- (3) 基本的な学力を培い、生活の質の向上を図る。
- (4) 将来の社会生活を意識し、働く意欲や態度を養い、知識や技能を身につける。

訪問教育部 目標

<在宅・施設訪問>

- (1) 外界へ興味関心を抱き、主体的に学習活動に取り組める児童・生徒
- (2) 心豊かに生き生きと毎日の生活を楽しめる児童・生徒

<病気療養児訪問>

- (1) 進んで学習に取り組める児童・生徒
- (2) 健康管理に努め、入院生活に目標を持ち前向きに生きる児童・生徒

《騎西特別支援学校の活性化・特色化方針》
(令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	知的障害	学部・学科	小学部・中学部・高等部	児童・生徒数	(男)156名 (女)46名	計202名
ホームページ	https://kisai-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	・JR高崎線 鴻巣駅下車 朝日バス 加須駅行き 「環境科学国際センター前」下車 徒歩2分 ・東武伊勢崎線 加須駅下車 朝日バス 鴻巣駅行き 「環境科学国際センター前」下車 徒歩2分					
教育課程等の特徴	・個に応じた支援の充実 本校では、児童生徒一人一人の障害の特性や実態に応じて、個別の教育支援を行っています。教育支援プランA・Bの他に、アセスメントツールによる実態把握等を行い情報共有し、小中高で連続性を持った支援を行っています。 ・高等部複数教育課程 基礎教育課程、総合教育課程、応用教育課程の3つがあります。基本的な生活習慣の確立を目指すことから企業就労を目標にした教育課程があります。					
特色ある学校行事や部活動	・運動会は1学期に実施しています。徒競走、各学部の演技や競技、応援合戦などをおして、児童生徒が一丸となって頑張ります。 ・文化祭は2学期に実施しています。ステージでの演劇発表、中学部・高等部は作業学習で作成した製品の頒布も行っています。ステージ発表はどの学部学年も圧巻の一言です。 ・校外宿泊学習では、それぞれの学部・学年で宿泊学習を実施しています。集団生活のルールや社会性を身に付けます。 ○小学部：校外宿泊学習（4，5年生：吉見方面）：修学旅行（6年生：栃木方面） ○中学部：校外宿泊学習（2年生：長瀬方面）：修学旅行（3年生：千葉方面） ○高等部：校外宿泊学習（2年生：赤城方面）：修学旅行（3年生：東北方面） ・社会体験学習では、社会性を身に付けるため様々な社会体験学習を実施しています。 ○小中学部：工場見学、ショッピングモール ○高等部：防災学習センター(防災意識を高める学習) ブリランテ武蔵野(テーブルマナー講座) ・部活動では、高等部の生徒たちがバスケットボール大会やサッカー大会に向かって週3日間練習を行っています。					
家庭・地域との連携	・保護者の方向けに保健や進路に関する研修会を実施しています。 ・各学部で地域の方と交流行事を行っています。 (小学部→芋ほり、中学部→餅つき、高等部→うどん作り、太鼓) ・年に2回種足地区区長との懇談会を実施しています。 ・国際交流では、中学部・高等部が県立不動岡高等学校ALTとの交流をしています。 ・交流及び共同学習では地元小中学校・高等学校との交流会を行い、ノーマライゼーション教育を推進しています。 小学部→種足小 中学部→騎西中 高等部→鴻巣女子高等学校 ・支援籍学習では障害のある児童生徒と障害のない児童生徒が共に学び、地域との関係を深めるとともに特別な教育的支援を要する児童生徒一人一人にきめ細かな教育実現を図ります。					
進路について	・卒業後の進路状況(R元年度)通所施設19人、入所施設1人、就職7人、在宅1名 ・進路学習は高等部3年生と語る会、社会人の先輩と語る会、就労支援アドバイザーを招いての学習会を実施しています。産業現場等における実習では、卒業後の進路を決めるうえで重要な学習です。本校では1年から3年まで、段階的に就労に向けた支援を行っています。 ○1年：校内実習 現場実習の前段階として、校内で実習を行います。企業や作業所から組立や箱詰めなどの軽作業を頂き、実習を行っています。 ○2・3年：現場実習 企業や作業所・通所施設に1、2週間程度行き、実際に実習を行います。卒業後の進路を決めるうえで一番重要な進路学習です。					

(※児童生徒数：R2.5.1現在、進路はR2.3卒業生の実績)

埼玉県立騎西特別支援学校

児童生徒の成長物語

自立や社会参加に向け、心豊かにたくましく生きる力を育て、保護者や地域から信頼される学校



重点目標 1 発達段階や教育的ニーズに応じた専門性の高い授業を展開し、自立活動や体験活動を通して児童生徒一人一人の可能性を伸ばす教育を推進する。 2 小・中・高の連続性のある進路指導体制を構築し、児童生徒の自立と社会参加に向けたキャリア教育を推進する。 3 危機管理の意識を高め、緊急時に備えた安心安全な学校づくりを推進する。 4 外部機関との連携を深め、本校の教育資源を地域に資するなどセンター的機能の充実を図り、地域と協働する学校づくりに取り組む。 教育活動 本校は知的障害のある児童生徒に対し教育を行う学校で、小学部・中学部・高等部が設置されています。四市（加須市（旧加須市、旧騎西町）・北本市・久喜市（旧菖蒲町）・鴻巣市の一部）の学区からスクールバス等で通学しています。	〒347-0115 埼玉県加須市上種足888 TEL:0480(73)3510 FAX:0480(70)1005
---	---

▼学校行事 運動会：1学期に実施しています。徒競走、各学部の演技や競技、応援合戦などとおして、児童生徒が丸となって頑張ります。 文化祭：2学期に実施しています。ステージでの演劇発表の他、中学部・高等部は作業学習で作成した製品の頒布も行っています。	▼社会体験学習 社会性を身に付けるため、様々な社会体験学習を実施しています。 小中学部：工場見学、ショッピングモール 高等部：防災学習センター テーブルマナー学習		高等部卒業までに身に着ける5つの力 ・あいさつ、返事 ・コミュニケーション ・身だしなみ ・健康、体力 ・安全	卒業後3年をめどに年に2回巡回指導を行っています。
--	--	--	---	---------------------------

▼校外宿泊学習 それぞれの学部・学年で宿泊学習を実施しています。集団生活のルール、社会性を身に付けます。 ○小学部：校外宿泊学習（4、5年生：吉見方面）：修学旅行（6年生：栃木方面） ○中学部：校外宿泊学習（2年生：長瀬方面）：修学旅行（3年生：千葉方面） ○高等部：校外宿泊学習（2年生：赤城方面）：修学旅行（3年生：東北方面）	～個に応じた支援の充実～ 本校では、児童生徒一人一人の障害の特性や実態に応じて、個別的教育支援を行っています。教育支援プランABの他に、アセスメントツールによる実態把握を行い情報を共有し、小中高で連続性を持った支援を行っています。また、個別に対応が必要なケースにおいては、校内支援委員会、ケース会議等、迅速かつ適切な対応を図っています。	進路学習 就労支援アドバイザー学習会 社会人の先輩と語る会 3年生と語る会	進路実現 社会的自立・社会参加 一般企業・通所施設・入所施設
---	--	---	---

～本校のセンター的機能～ ・学区小・中学校の教員への支援 ・特別支援教育の理解・啓発への研修会などの企画、立案等 ・ボランティアの育成および啓発活動	中学部 ・健康で安全な生活を営む力を育てる。 ・日常生活に必要な力を広げ、自ら行う力を育てる。 ・意欲的に学習し、生活にいかす力を育てる。 ・気持ちや要求を表現する力を育てる。 ・経験を豊かにし、コミュニケーション能力を育てる。 ・自分の役割を知り、社会生活に必要な力を育てる。	高等部 ・健康に生活する態度を身につけ、明るく前向きに生きる力を育てる。 ・基本的生活習慣を確立させ、様々な環境に適応する力を育てる。 ・自ら学び、学んだことを社会生活にいかす力を育てる。 ・感じる力を豊かにすると共に、自分の考えを人に伝える力を育てる。 ・思いやりをもって人とかわり、社会の中で自己をいかす力を育てる。 ・働くことの意味と喜びを知り、他者の協調、協力して仕事をする力を育てる。
--	--	--

小学部 ・楽しく身体を動かすことを通して、基本的な身体の動きを高めるとともに、丈夫な身体を育てる。 ・身の回りのことを自分でやろうとする力を伸ばす。 ・遊びや様々な経験を通して、興味関心を広げていく。 ・相手からの働きかけに応じる力を適切な方法で伝える力を伸ばす。 ・活動の見通しを持ち、意欲的に学習する力を育てる。 ・人とかかわりを豊かにし、大人や友達とともに活動する力を育てる。	国際交流 中学部・高等部 県立不動岡高等学校ALTとの交流会 地域交流 小学部 芋ほり 中学部 餅つき 高等部 うどん・太鼓
--	--

◆ノーマライゼーション教育の推進 交流及び共同学習 地元小中学校・高等学校との交流会を行いノーマライゼーション教育を推進しています。 小学部→種足小 中学部→騎西中 高等部→鴻巣女子高等学校	～高等部現場実習～ 現場実習は、卒業後の進路を決めるうえで重要な学習です。本校では1年から3年まで、段階的に就労に向けた支援を行っています。 1年：校内実習 現場実習の前段階として、校内で実習を行います。企業や作業所から組立や箱詰めなどの軽作業を頂き、実習を行っています。 2・3年：現場実習 企業や作業所・通所施設に1週間程度行き、実際に実習を行います。卒業後の進路を決めるうえで一番重要な進路学習です。	～本校の児童生徒の教育方針～ 以下の学習内容を基に、児童生徒の年齢や発達段階に応じた内容を精選して指導をしています。 教科別の指導：国語、算数（数学）、音楽、図画工作（美術）、体育（保健体育）、家庭、職業 教科等を合わせた指導：日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習 その他の指導：道徳、特別活動、自立活動、総合的な学習（探究）の時間
---	---	--

◆支援籍学習 障害のある児童生徒と障害のない児童生徒が共に学び、地域との関係を深めると共に、特別な教育的支援を要する児童生徒一人一人にきめ細かな教育実現を図ります	保護者・地域との連携、保護者の方向けに保健や進路に関する研修会を実施しています。・地域の協力を得て芋ほりを実施しています。・年に2回種足地区区長との懇談会を実施しています。
---	--

《行田特別支援学校の活性化・特色化方針》
(令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	知的障害	学部・学科	小・中・高等部	児童生徒数	(男)163 (女) 69	計 232																		
ホームページ	https://gyoda-sh.spec.ed.jp/																							
アクセス	< J R 高崎線 > ・吹上駅下車 朝日バス：佐間回り行田折り返し場行 または、総合教育センター行 または、工業団地行 } 産業道路下車 徒歩 15 分 ・行田駅下車 市内循環バス：南大通り線コース 工業団地行 警察署前下車 徒歩 5 分 <秩 父 線> 行田市駅下車 徒歩 40 分																							
教育課程等の特徴	・個別の教育支援計画（プラン A・B）に基づき、合理的配慮のもとに取り組む教育 ・卒業後の社会生活を見据えた、複数の教育課程による高等部の教育 ・交流及び共同学習をととして、地域の子どもたちの相互理解に努める。																							
特色ある学校行事や部活動	・地域の小・中・高等学校との交流学习の実施 ・公共施設等での作品展示や高等部作業班の製品販売																							
家庭・地域との連携	・学校公開の実施（年 2 回） ・学区連絡協議会の開催（年 2 回） ・保護者自由参観の実施（毎学期） ・事業所フェアの実施（夏季休業中） ・PTA主催夏まつり、クリスマス会の開催																							
進路について	・生徒の能力・適性に応じた柔軟な進路指導を行い、本人・保護者が納得した望ましい進路実現を目指す（一般就労・福祉事業所・グループホーム他）。 ・「産業現場等における実習」をととして、一人ひとりに設定した目標を達成することにより、自己の適性や能力をより確かなものに発展させることで、卒業後の進路を具現化することを目指す。 ・卒業後も 3 年間の追指導（アフターケアの実施）。 ・就労支援アドバイザーや進路指導サポーターとして、障害者就労における専門家を招聘し、より実践的な研修・指導を実施。 <table><tr><td></td><td>卒業者数</td><td>進 学</td><td>企業就労</td><td>福祉的就労</td><td>その他</td></tr><tr><td>中学部</td><td>26</td><td>26</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>高等部</td><td>34</td><td>1</td><td>10</td><td>21</td><td>2</td></tr></table> ・中学部 1 名が熊谷農業高等学校へ、25 名が本校高等部へ進学。 ・主な企業就労先 (株) すかいらーくホールディングス、(株) ベルク、(福) 羽生福祉会くわの実 (株) アイセン 他							卒業者数	進 学	企業就労	福祉的就労	その他	中学部	26	26	0	0	0	高等部	34	1	10	21	2
	卒業者数	進 学	企業就労	福祉的就労	その他																			
中学部	26	26	0	0	0																			
高等部	34	1	10	21	2																			

（※児童生徒数：R2.5.1 現在、進路は R2.3 卒業生の実績）

県立行田特別支援学校

～児童生徒の成長物語～

本校の 特 色

- ☐ 自閉症などの障害特性を踏まえ、わかりやすく見通しの持てる指導・支援に努めます。
- ☐ わかる授業づくりで自信を持たせ、学習に取り組む意欲を育てます。



学校行事

地域も応援、全校で
取り組む学校行事

- 運動会
- スマイルまつり
保護者が応援
- PTA主催夏まつり、
クリスマス会

現場実習

働く厳しさを知り、
充実感を体験します。

- 一般企業での
現場実習
- 福祉事業所での
現場実習

高等部

一人一人の力を伸ばす3つ
の教育課程

発展型

充実型

基礎型

- 社会生活職業生活に必要な知識、技能を身に付けます。
- よりよい社会生活が過ごせるよう、余暇を利用する力を身に付けます。

中学部

- 小学部で身に付けた力をさらに伸ばし、自己肯定感を育みながら、クラスや学年での自分の役割に責任をもって取り組む意欲や態度を身に付けます。
- 高等部での学習につなげ、実社会への興味関心のきっかけとなるよう作業学習に取り組み始めます。

地域との連携、センター的機能

- 就学前の教育相談、巡回相談の実施
- 学区域連絡協議会の開催
- 公共施設等での作業製品展示・販売
- 事業所フェアの開催
- 学校公開講座、研修会の開催
- ボランティア養成講座開講

交流及び共同学習

- 通常学級支援籍の取組
- 行田市立東小学校、
行田市立埼玉中学校、
行田市立行田中学校、
誠和福祉高等学校との
交流

小学部

- 生活や学習の基礎となる、大人との信頼関係、基本的生活習慣、身辺自立に必要なスキルを身に付けます。
- 体験活動をととして、社会性の芽生え、規範意識の基礎を身に付けます。

個に応じた支援・指導

- 保護者と合理的配慮について合意形成を図り、個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成。
- アセスメントを活用した実態の把握。
- わかる・できる授業づくり。
- 外部専門家の活用
(臨床発達心理士、言語聴覚士など)

行田特別支援学校は、水と緑と人が育む学校

《久喜特別支援学校の活性化・特色化方針》
(令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	知的障害	学部・学科	小学部・中学部 ・高等部	児童 生徒数	(男) 128 (女) 60	計 188
ホームページ	http://www.kuki-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	JR宇都宮線/東武伊勢崎線「久喜駅」西口、朝日バス「菖蒲仲橋」行で約15分、バス停「高木病院」下車、徒歩5分					
教育課程等 の特徴	学校教育目標「個を知り、個を伸ばす」 児童生徒一人ひとりの障害の状況及び心身の発達に応じて、適切な教育を行い、その能力と個性を伸ばすとともに、自立と社会参加に向けて、基礎となる力を育てます。 【各学部の目標】 ・小学部低学年は、自分から身の回りのことに取り組むことなどです。 ・小学部高学年は、生活に見通しを持ち自分で考えて行動することなどです。 ・中学部は、基本的生活習慣の確立を図ることなどです。 ・高等部は、基本的生活習慣の確立に努め、健康で安全な生活を送ることなどです。					
特色ある 学校行事や 部活動	・6月の運動会、11月の文化祭「いちようまつり」、1月の「いちようバザール」を中心に積極的に地域に開かれた学校づくりを目指しています。 ・部活動は運動部、ダンス、太鼓、音楽、美術の5部活が頑張っています。 ・地域での作業学習の頒布会や学区内の学校との交流も盛んです。 ・小学部高学年から宿泊学習も始まります。 【小学部】校内宿泊学習(小4)、林間学校(小5)、修学旅行(小6) 【中学部】校外集団宿泊学習(中2)、修学旅行(中3) 【高等部】校外集団宿泊学習(高1,2)、修学旅行(高3) ※令和2年度はコロナウイルス感染防止の観点から中止となる行事もあります。					
家庭・地域 との連携	・年4回の保護者会、学校説明会の実施等、開かれた学校づくりを行っています。 ・教育支援プランA・BⅠ・BⅡを活用して、保護者との個別面談を行っています。 ・年間を通じて様々な行事において、保護者や地域の皆様との連携を深めています。 ・文化祭やPTA夏まつり等で、近隣の高校や地域のボランティアの協力も盛んです。 ・各学部が交流会を実施し、他校の児童生徒達との交流を積極的に行っています。 ・児童生徒の健やかな成長のために、福祉関係や医療関係の機関とも連携しています。					
進路に ついて	・高等部卒業後は、就職が2～3割、施設等の利用が7～8割等の進路状況。 ・生徒の適性や希望に応じた進路保障を実現するため、本人、保護者と共通理解を図りながらきめ細やかな進路指導を行っています。(小中学部の生徒の多くは、中高等部に進学をしています)					

(※生徒数：R2.5.1現在、進路はR2.3月卒業生の実績値)

久喜特別支援学校 児童生徒の成長物語



「個を知り、個を伸ばす」ために・・・
めざすは「児童生徒の社会的自立の力を育む」学校です！

★重点目標★ ①何が身についたか実感できる授業 ②児童生徒の確かな自立 ③安全で安心な学校生活



ライフキャリア

自分らしい
生活をおくる
(趣味や
休日を楽しむ)



ワークキャリア

働くこと、
社会の一員
としての
やりがい



自分らしく
生きる！

小学部での6年間



「意欲」と「自信」を育む

「できる」「わかる」
喜びを育む

ほめて育てる



「安心」「安全」な
学校生活を送る

中学部での3年間



基本的な生活習慣の確立

コミュニケーション力 UP
「応じる」「伝える」「関わる」



高等部での3年間

続ける力、働く力
(健康な体と持続力)

基礎知識、考える力
見通しを持つ力



小学部低学年

小学部高学年

中学部

高等部

学部目標

・自分から身のまわりの
ことに取り組もう。
・元気に遊んで丈夫な体をつくろう。
・好きなことをたくさん見つけよう。
・身近な人と関係を深め、安心して
自分の気持ちをあらわそう。



・生活に見通しを持ち
自分で考えて行動しよう。
・意欲的に体を動かして
活動しよう。
・好きなことをふやし、
いろいろな場面で
楽しさを表現しよう。
・人とのやりとりの中で
思いをつたえよう。



・基本的生活習慣の確立を図る。
・健康な体をつくり、
体力向上を図る。
・基礎的な知識を身につけ、
自分で考える力や
見通せる力を育てる。
・自分の気持ちや要求を
表現する力を育て、
人との関わりを広げる。



・基本的生活習慣を確立し、
健康で安全な生活を送る。
・興味関心や生活経験
の拡大を図る。
・より良い人間関係
の育成に努める。
・将来の社会生活、職業生活に
必要な基礎的、基本的な能力や
態度を身につける。



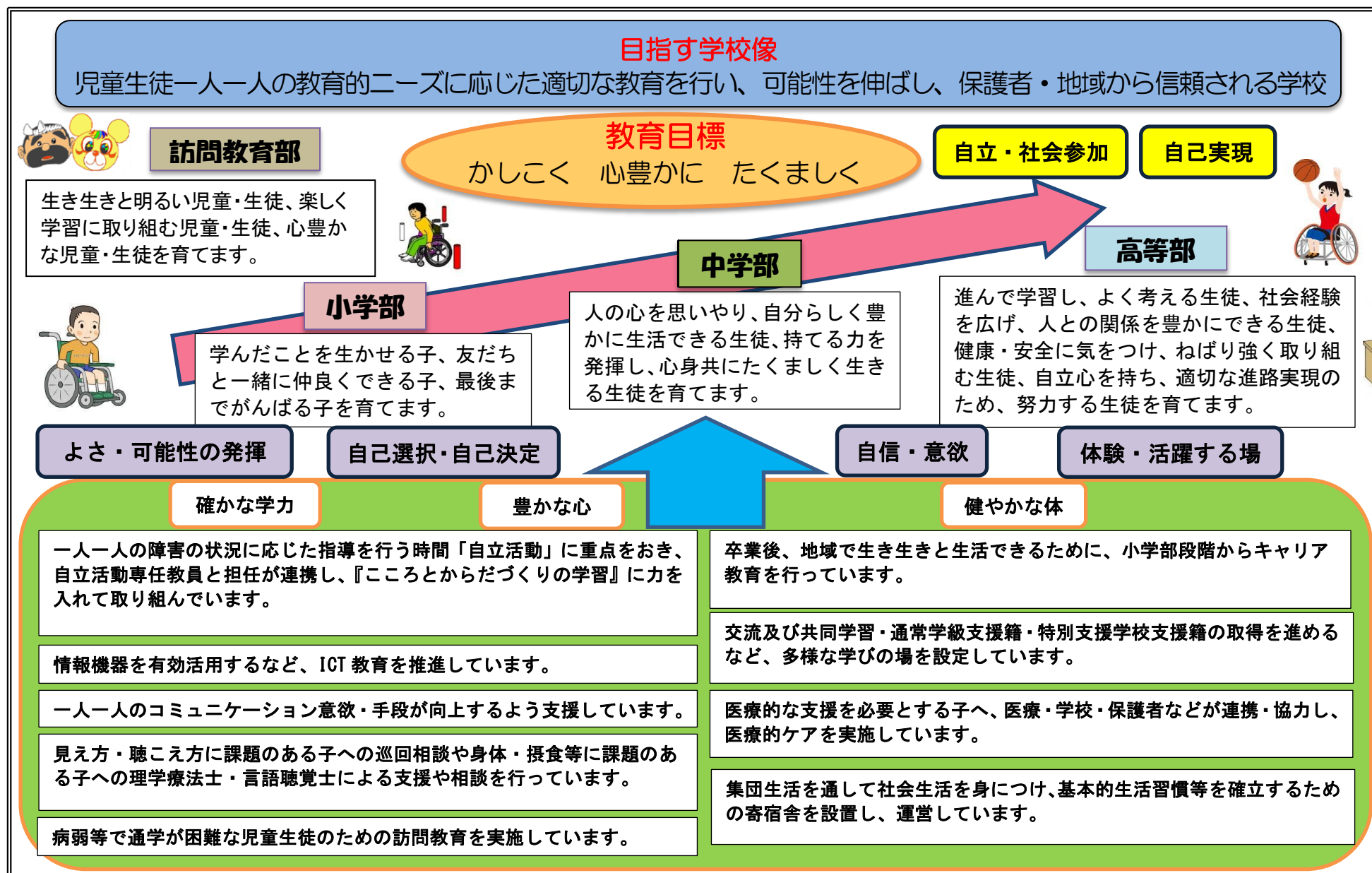
《熊谷特別支援学校の活性化・特色化方針》
(令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	肢体不自由	学部・学科	小学部・中学部・高等部	児童生徒数	(男) 7 8 (女) 5 6	計 1 3 4
ホームページ	http://www.kumagaya-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	秩父線大麻生駅より徒歩 25 分、明戸駅より徒歩 20 分					
教育課程等の特徴	本校の教育課程は心身の障害の状況や発達の状況に応じて大きく 4 つに分けている。 ・ 類型Ⅰ・・・当該学年の指導内容・指導目標に準ずる教育課程 ・ 類型Ⅱ・・・授業の遅れ、学習進度を考慮し下学年の指導内容・指導目標も含めた教育課程 ・ 類型Ⅲ・・・知的障害の特別支援学校の学習を参考にした教育課程 ・ 類型Ⅳ・・・自立活動の目標・指導の手だてが主となる教育課程 ※ 類型Ⅲ・Ⅳについても教科学習を大切にして授業を行っている。					
特色ある学校行事や部活動	・ コミュニティースクールとして、交流及び共同学習等の機会において、地域と協働で児童生徒の学びと育ちを進める。(本年度1年目) ・ 地域の中学校の参加や福祉作業所、PTA などの販売等の協力を得るとともに、児童生徒の日ごろの学習の成果を発表する場として夢祭(文化祭)を行っている。(本年度中止、本校児童生徒の作品展示のみ計画) ・ 各学部やブロック種目、紅白に分かれての応援合戦、児童生徒が中心となつてのレクダンスや進行など、一人一人が輝く体育祭を実施している。(本年度中止) ・ 熊特スポーツクラブやイングリッシュクラブで放課後の余暇活動を充実させている。(本年度は2学期より実施予定)					
家庭・地域との連携	・ 授業公開を年5回実施。(本年度中止、個別に教育相談・学校見学実施) ・ 共生社会の形成を目指し、近隣の小中高等学校との交流及び共同学習を積極的に行っている。(本年度中止) ・ 「アートで築こう地域の輪」活動で児童生徒の作品をとおして地域とのつながりを大切にしている。(規模、時期を変更し実施予定)					
進路について	・ 高等部の卒業生については、福祉的就労等13名(就労継続B型2名、生活介護6名、施設入所3名、在宅2名)、就労1名、進学0名である。 ・ 小学部・中学部の生徒は、それぞれ中学部・高等部へ進学。					

(※児童生徒数：R2.5.1 現在、進路は R2.3 卒業生の実績)

2 育成方針（埼玉県立熊谷特別支援学校 ～児童生徒の成長物語～）



《けやき特別支援学校の活性化・特色化方針》
(令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	病弱	学部・学科	小学部 中学部	児童 生徒数	(男)15名 (女)13名	計28名
ホームページ	https://keyaki-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	JR『さいたま新都心駅』より、徒歩7分 JR『北与野駅』より、徒歩8分 ＊1階または2階の南玄関から入り、南エレベーターで7階へ、お越しください。 ＊駐車場はございません。公共交通手段を御利用ください					
教育課程等 の特徴	小学部・中学部があり、教育形態としては、学校に登校する『通学による指導』と、病棟のベッドサイドに教員が訪問する『訪問教育による指導』があります。 ◎『通学による指導』 学年ごとの『準ずる教育課程』と、学部ごとに1クラスの『重複学級』があります。 【週授業時数：25～29単位時間（学年相応標準時数）】 ◎『訪問教育による指導』 『準ずる教育課程』もしくは『自立活動を主とする教育課程』から、指導内容を精選して、実施しています。【週授業時数：15単位時間（1日3単位時間）】 なお、教育形態については、治療方針等踏まえた医師からの指示を基本に、保護者・本人の了承を得て、決定していきます。					
特色ある 学校行事や 部活動	◎活動の充実 『病気療養中でも、活動を工夫することで、勉強や行事に取り組むことができる』を基本に、体育祭や文化祭、修学旅行等の行事についても、病院と連携を取りながら、実施しています。 ◎ICTの活用 教室で授業を受けることが難しい児童生徒は、病室で教員と学習するだけでなく、教室の友だちと同時双方向通信技術を活用して、一緒に学習できるようにしています。企業（リコージャパン）様にも御協力いただきながら、テレプレゼンスロボットを使用することで、病室にいる児童が、社会科見学（さいたまスーパーアリーナ）にも、参加しました。					
家庭・地域 との連携	◎復学支援会議 退院時に、医師からの要望により、復学支援会議を実施しています。原籍校から、管理職、養護教諭、担任等に御来校いただき、医師から学校生活上の配慮事項、本校教員から学習上の配慮事項について、お伝えする場を設定しています。 ◎その他 全児童生徒を対象に、医師から学校生活上の配慮事項について記載した用紙を原籍校に送付。別途、原籍校からの依頼に応じて、コーディネーター等が原籍校に巡回相談を実施。病気療養児のスムーズな復学に向けて、支援を行っています。 ＊高校生入院時学習支援 埼玉県立小児医療センターに入院中の、埼玉県立高等学校に在籍する生徒の学習支援をコーディネートしています。					
進路について	◎卒業時には原籍校へ転出するため、本校での卒業とはなりません。 【＊原籍校で、地元の友達と一緒に卒業を迎えてほしいため】 なお、入院が継続する場合は、原籍校で卒業、進学先の学校に入学後、再び本校に転入という、流れになります。					

（※児童生徒数：R2.5.1 現在、進路は R2.3 卒業生の実績）

2 育成方針 『つながり』を大切にした学び

本校に在籍する子どもたちは、病気療養のため、家族や地元の友だちと離れた生活を余儀なくされています。本校に在籍していても、治療や体調によっては登校することが難しい場合もあります。このような生活の中で、子どもたちに少しでも、多くの『人』と接点を持ってもらいたく、本校ではICTを活用し、『つながり』を大切にした学びの機会を多く設けています。

直接会うことはできなくても、同じ時間に同じ活動を共有することで、『友だちと一緒に』を感じられるようにしています。



病室と教室（校外学習）の『つながり』



地元の学校と本校（教室・病室）の『つながり』



『つながり』をもっておくことで、登校や元の学校に戻るときに、疎外感が少なく スムースに元の居場所に戻ることができます。

《けやき特別支援学校伊奈分校の活性化・特色化方針》（令和３年度～）

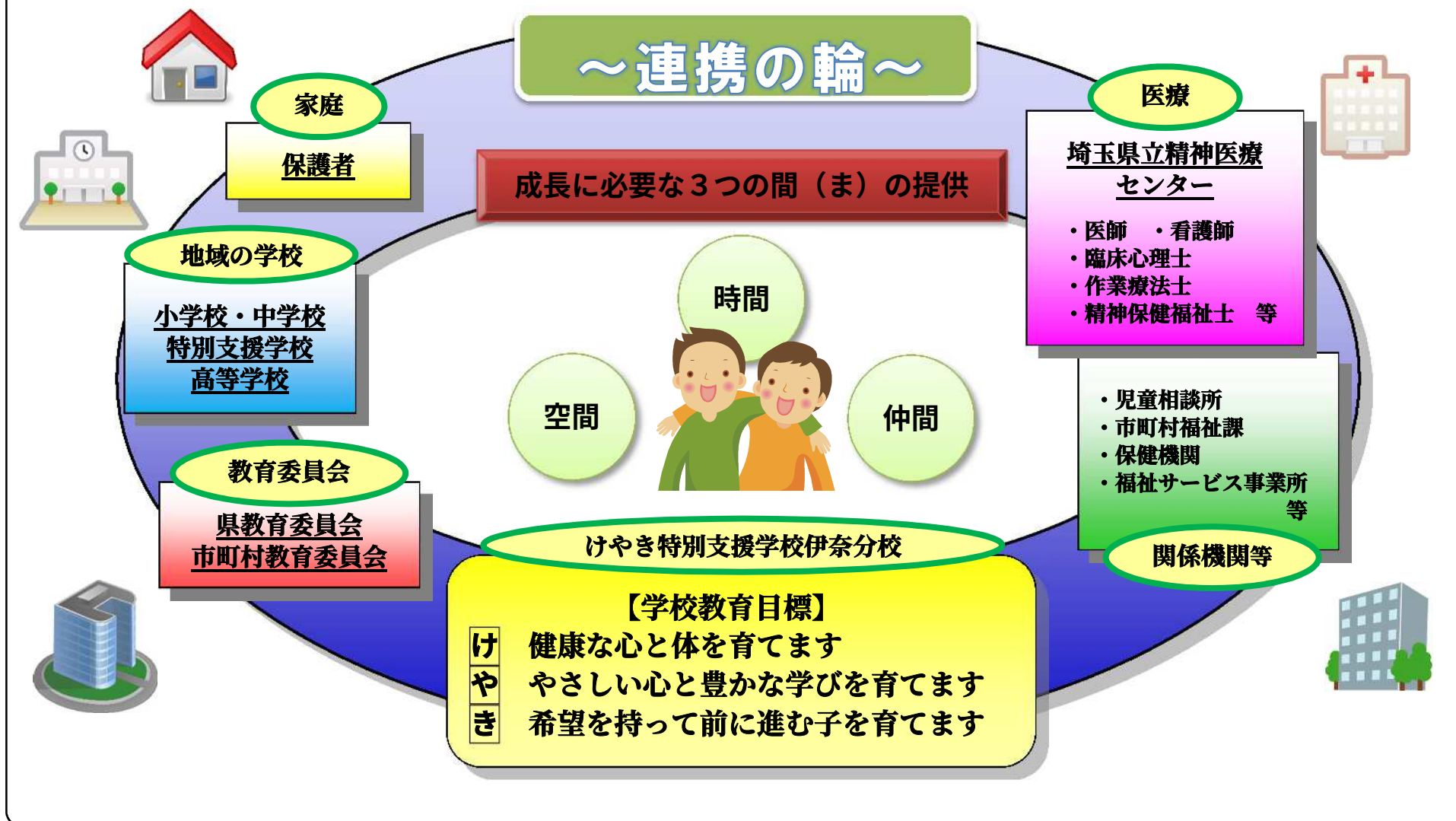
1 学校基本情報

種別	病弱	学部・学科	小・中学部	児童生徒数	(男) 16 (女) 8	計 24名
ホームページ	http://www.keyaki-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	・ 埼玉新都市交通伊奈線（ニューシャトル）丸山駅から徒歩約 8 分 ・ J R 高崎線上尾駅からがんセンター行きバス約 15 分 がんセンター停留所下車 徒歩約 4 分					
教育課程等の特徴	埼玉県立精神医療センターに入院中の児童生徒が学んでいる学校です。 ・ 小学校、中学校と同じ教科等の授業を実施しています。 ・ 病気の状況や学習空白に配慮した学習グループ編制を行っています。 ・ 児童生徒の実態に即した自立活動の授業を展開しています。 伊奈分校では自立活動の時間に、自己理解を進め、コミュニケーション力や感情のコントロールの向上を目指す取り組みを行っています。 入院から退院までの流れ <pre> graph LR A[入院転入] --> B[病室での個別指導] B --> C[登校
(1時間から)] C --> D[段階的に
集団参加] D --> E[復学支援
会議] E --> F[準備登校] F --> G[退院
転出] </pre>					
特色ある学校行事や部活動	学校行事の取り組みの中で、係や役割を分担し自己有用感や達成感を得ることができるようになっています。また、経験が不足している児童生徒が多いため、様々な体験をすることができるよう計画しています。 ◆ 校外体験学習、社会体験学習 小・中学部合同で博物館や環境センター等にバスで行き、様々な体験をします。 ◆ い〜な集会、文化祭、春のコンサート 児童生徒の学習成果を発表する場です。学期に 1 回行っています。 ◆ 和文化体験（落語体験）、国際交流授業 日本文化及び異文化についての理解を深める場です。 ◆ 芸術鑑賞会 感性を豊かにするとともに、マナー等を学ぶ機会になっています。					
家庭・地域との連携	埼玉県立精神医療センターとの連携のもと、以下の取組を行っています。 ・ 保護者との個別面談（随時） ・ 退院に向けて、復学支援会議・準備登校等による小・中学校との連携 ・ 児童相談所や地域の福祉課等との連携（必要に応じて） ・ 小・中・高等学校等との連携（公開講座、学校コンサルテーション、研修支援等）					
進路について	中学部 3 年生については、前籍校との連携のもと、一人一人の夢や希望の実現に向けて、進路の個別面談、受検先との連携等を行います。					

（※児童生徒数：R2.5.1 現在、進路は R2.3 卒業生の実績）

2 育成方針（児童生徒の成長物語）

埼玉県立けやき特別支援学校伊奈分校は連携の輪の中で児童生徒を育てていきます



《越谷特別支援学校の活性化・特色化方針》
(令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	肢体不自由	学部・学科	小学部・中学部 高等部	児童 生徒数	(男)135 (女)101	計 236
ホームページ	http://www.koshigaya-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	・東武スカイツリーライン せんげん台駅 徒歩約 25 分 ・茨急バスせんげん台駅から老人福祉センター行きバスに乗りし「大杉橋」バス停下車 徒歩約 10 分					
教育課程等の特徴	・登校は9時00分・下校は15時20分を基本とし、2学期制を実施しています。 ・心身の障害に応じて4つの基本的な指導グループ（類型）を構成し、個々の課題に応じた学習をしています。 ・児童生徒の状況に応じた食形態を工夫し、摂食指導を行っています。 ・看護教員及び研修を受けて認定された教員による、医療的ケアを実施しています。 ・寄宿舎があり、自立と社会参加できる実践力を身につけることを目的にした指導を行っています。					
特色ある学校行事や部活動	・社会体験学習では、近隣の公共施設・交通機関・商業施設等で、様々な体験活動を行っています。修学旅行（小6・中3・高3）は、校内宿泊学習（小5・中2）・校外宿泊学習（高2）の経験を生かして計画をしています。 ・中学部・高等部では希望者による課外活動を実施し、余暇活動の充実のための取組をしています。運動では、陸上・ボッチャ・サッカー・ローリングバレーボールに取り組み、大会にも参加しています。文化的活動では、室内ゲームや音楽活動・創作活動に取り組んでいます。 ・寄宿舎とPTAが共催し、寄宿舎のお祭（若竹祭）を開催しています。					
家庭・地域との連携	・定例の学校公開を年間10回実施しています。 ・近隣の小中高校と交流及び共同学習を行っています。 ・支援籍学習として、居住地の学校で年に数回学習する児童生徒がいます。 ・ボランティア養成講座や公開講座を開催しています。 ・特別支援教育コーディネータが地域支援を行っています。 ・地域のイベント等に参加しています。					
進路について	・教育活動全般を通して、卒業後に豊かに生活・協働する力を育みます。 ・地域社会の一員として、将来を見据えた支援を行います。 ・生徒及び保護者の方が、主体的に進路決定できるよう支援します。 ・外部関係機関・施設・事業所・企業等と連携して進路指導を行っています。 ・令和元年度卒業生の実績 生活介護16名、就労移行支援2名、就労継続支援B型3名、療養介護1名 在家庭・就労進学準備4名					

(※生徒数：R2.5.1 現在、進路は R2.3 月卒業生の実績値)

県立越谷特別支援学校

育成方針

【教育目標】

心豊かに 社会の中で 学習し続け やりとげる

【目指す学校像】

一人一人の児童生徒の豊かな成長を支援し、
保護者と地域の信頼に応える学校

令和2年度の取組

学校経営方針

- ア 特別支援教育の専門性の継承と更なる向上
- イ 開かれた学校づくりと特別支援教育のセンター的機能の発揮
- ウ 施設・設備・物品等の適正な管理と有効活用
- エ 自立と社会参加に向けた教育支援の充実
- オ 安心・安全な教育環境と職場環境の整備

4つの教育課程

- 類型Ⅰ — 当該学年の教科学習を中心とするグループ
- 類型Ⅱ — 前学年の教科学習を中心とするグループ
- 類型Ⅲ — 体験を重視した生活学習を中心とするグループ
- 類型Ⅳ — 自立活動を中心とするグループ

一人一人に応じた指導

個別の教育支援プランの作成と実施
自立活動の指導

状態にあった食
形態や再調理・
アレルギーへの対応



重点目標

- 新たな学校教育目標のもと、12年間を見通した教育課程の編成と、児童生徒一人一人を大切にされた教育活動を行う。
- 肢体不自由特別支援学校として、保護者と地域に信頼される学校づくりを行う。
- 安心安全な教育環境づくりと、その基盤としての教育力を高める教員集団づくりを行う。

教育形態

- 学校—
- 通学（学校）……………一般学級
重複学級
 - 訪問（家庭・施設）…訪問学級

中学部 自立と社会参加に向けての 基礎・基本の力をひろげる

高等部 自立と社会参加に向けて 必要な実践力をのばす

卒業後の進路 進学、就労、通所、入所

医療的ケア

学校管理下（登下校時は除く）において、
相談医の指導の下、看護教員及び研修を受
けて認定された教員が連携協力して実施
します。

- ・経管栄養（栄養、水分、薬）
- ・吸引（口鼻腔、気管カニューレ内部）
- ・吸入 ・介助導尿
- ・酸素療法

寄宿舎

家庭、学校での生活を手がかりに、第三の
生活の場として共同生活をし、自立と社
会参加できる実践力を身につけます。

地域との連携

支援籍学習（小学部・中学部）
地域支援・教育相談
ボランティア養成講座・公開講座開催
放課後等デイサービス事業所連絡会開催

小学部 自立と社会参加に向けての 基礎・基本の力をそだてる



中学部類型ⅠⅡ



中学部類型Ⅲ



高等部類型ⅠⅡ



高等部類型Ⅲ



小学部類型ⅠⅡ



小学部類型Ⅲ



中学部類型Ⅳ



交流会



高等部類型Ⅳ



高等部修学旅行



小学部類型Ⅳ



運動会



越陽祭



訪問教育



支援籍学習



課外活動

＜＜越谷西特別支援学校の活性化・特色化方針＞＞
(令和３年度～)

1 学校基本情報

種別	知的障害	学部・学科	小・中・高等部	児童 生徒数	(男)192 (女) 69	計 261
ホームページ	http://www.koshigayanishi-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	東武線越谷駅から バス 25 分／ＪＲ東川口駅から バス 10 分／西新井下車 徒歩 10 分					
教育課程等 の特徴	・小学部における日常生活の指導、遊びの指導等を中心とした社会性の育成 ・中学部、高等部では複数の教育課程による生徒の実態・ニーズに応じた学習の実施 ・タブレットパソコン等のＩＣＴ機器を活用した授業の展開 ・言語聴覚士、臨床心理士等の外部専門家を活用し、一人一人のニーズに応じた指導 ・漢字検定、パソコン検定等の検定試験の取組をととした学習意欲の向上と自信の醸成 ・県立学校オリンピック・パラリンピック教育推進校として、新教育課程を踏まえた指導を研究している。					
特色ある 学校行事や 部活動	・全校が一体となって取り組む運動会、西ようまつり（文化祭）を実施している。 ・県民健康福祉村における全校マラソン大会を実施している。 ・宿泊学習、修学旅行、社会体験学習、社会科見学等を通して、経験の拡大を図るとともに主体的な活動を促している。 ・中学部、高等部には部活動があり、個性や能力の伸長を図りながら意欲的に活動している。 ・高等部の球技部・陸上部は、特別支援学校体育連盟の大会において入賞などの活躍をしている。					
家庭・地域 との連携	・学校説明会、学校公開を年２回実施、多くの方に来校いただいている。 ・越谷市立大沢小学校、西中学校との交流及び共同学習を実施し、互いのことを理解し合える活動に取り組んでいる。 ・高等部生徒会は、越谷総合技術高校及び越谷市内の高校生徒会との交流を実施している。 ・家庭とは、毎日の丁寧な連絡帳、連絡をとおして密な連携をとっている。 ・高等部は、地元企業、地元施設との連携を進めながら現場実習に取り組んでいる。					
進路に ついて	・一般就労は約２９％、福祉施設などの利用が約６３％である。 【一般就労】店舗（スーパーマーケット）、サービス業（レストラン、クリーニング）、倉庫（工場）、高齢者介護施設、事務補助など 【福祉的就労】越谷市・松伏町・草加市・川口市・春日部市・さいたま市等の福祉施設 ・小学部・中学部の生徒は、それぞれ中学部・高等部等へ進学している。					

(※生徒数：Ｒ2.5.1 現在、進路は Ｒ2.3 月卒業生の実績値)



本校の 特色

- ◆本校の教育方針・・・小・中学部、高等部の生徒の実態、ニーズに応じた教育課程
個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し、外部専門家の指導助言を活用
- ◆教育内容の特色・・・自立活動を重視し、タブレットパソコン等のＩＣＴ機器を活用した授業の展開



充実した自立活動

実績のある自立活動の指導は、児童生徒の意欲・主体性を育みます。

高等部

- 基礎的な学力を高め、自ら進んで課題に取り組みます。
- 卒業後の社会生活へ向け、仲間と協力する姿勢を養います。
- 心身の健康を意識し、生活を豊かにする力をつけます。

校内・現場実習

校内実習、現場実習に繰り返し取り組み、適性に合った進路実現を目指します。



校内支援体制

本校コーディネーター、担任、関係者を交え、全校体制で児童生徒の支援を検討します。

中学部

- 学んだことを生かし、自ら考え、行動します。
- 人との関わりを深め、協力して生活します。
- 健康や安全に関心を持ち、基礎的な体力をつけます。

外部専門家の活用

言語聴覚士、臨床心理士等の専門家を活用し、的確な実態把握、指導・支援を行います。

保護者との連携

保護者との密な連携をとって、児童生徒を大切に育みます。

小学部

- 興味関心を広げ、意欲的に学びます。
- 人との関わりを広げ、自分の気持ちや要求を表現します。
- 基本的な生活習慣を身につけ、健やかな身体をつくります。



意欲・自信の育成

各種検定試験の受験、美術展、硬筆展への出品により、意欲と自信を育みます。

児童生徒一人一人を確実に伸ばし、自分の生活を切り開く力・社会生活のできる人間の育成

《埼玉県立特別支援学校さいたま桜高等学園の活性化・特色化方針》
(令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	知的障害	学部・学科	高等部 生産技術科 家政技術科 工業技術科 環境・サービス科	児童 生徒数	(男) 164 (女) 72	計 236
ホームページ	http://www.saitamasakura-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	JR京浜東北線・北浦和駅西口より西武バス 大久保団地東下車 徒歩1分 JR埼京線・南与野駅北入口より西武バス又は国際興業バス 大泉院通り下車 徒歩5分					
教育課程等の特徴	・職業教育に重点をおいた教育課程を編制（4学科・8コース制） ・週31.6時間のうち、15.6時間は専門教科を履修 ・接客サービスコースによるカフェ桜家営業（毎週火・木曜日） ・環境・サービス科によるコミュニティショップ桜営業（毎週木曜日） ・プラザウエストでの出張販売（隔週火曜日）					
特色ある学校行事や部活動	・体育祭（学年対抗） ・文化祭（各学科の製品作りの実演・販売、学年の合唱） ・部活動（運動部6部、文化部4部の各種大会やコンクールへの積極的な参加） ・校外・校内宿泊学習を通した、自立生活に向けた学習 ・職場見学、社会体験学習、修学旅行等を通した、社会参加に向けた学習 ・産業現場等における実習を1年生から3年生まで年間を通じて実施 ・企業向け学校公開、障害者雇用セミナーの実施（各1回） ・全国障害者スポーツ大会出場選手を輩出（H30、R1 陸上競技） ・アビリンピック全国大会出場選手を輩出（H30、R1 喫茶サービス部門、R1ビルクリーニング部門、R1オフィスアシスタント部門）					
家庭・地域との連携	・学校説明会を年6回開催 ・常盤高等学校との交流学習（カフェ桜家、文化祭参加） ・近隣保育園、小学校との交流学習（芋ほり体験、小学生お仕事体験教室） ・桜区との連携（プラザウエスト販売学習、親子木工教室、木製コースター製作配布等） ・企業との連携（ローソンとのコラボ商品開発「もっちりとしたさくらあんぱん」関東甲信越のローソン店舗にて販売～H31.3） ・自治会との連携（地域祭りの参加、敬老会、学校応援団として学校行事への協力） ・地域清掃（埼玉大学、常盤高等学校、桜区役所、埼玉大学通り（北浦和駅まで））					
進路について	・一般就労の実現と職場定着の向上を目指す ・開校からの企業就労率は平均90%以上、就労定着率も90%以上となっている ・本人にあった就職を選定（移行支援施設や職業訓練校を選択する場合もあり） ・年間を通じた産業現場等における実習を通したジョブマッチング ・就労支援連絡会を通して、地域の障害者就労支援センターと連携強化および卒業時には全ての生徒について支援の引継ぎ					

（※生徒数：R2.5.1現在、進路はR2.3月卒業生の実績値）

一人一人の夢の実現 適正就労100% ～本物の社会で生きて働く力を育む学校～

職業学科の紹介

生産技術科

【農園芸コース】

- 野菜・草花等の栽培管理及び販売
- 【フードデザインコース】
- パンを中心とする食品の製造販売

家政技術科

【接客サービスコース】

- カフェの営業や弁当の製造販売
- 【服飾デザインコース】
- 縫製加工、衣服、袋物等の製作販売

工業技術科

【木エコース】

- 木工機械の取り扱い、木材品の製作販売
- 【インテリアコース】
- クラフト加工等インテリア製品の製作販売

環境・サービス科

【オフィスサポートコース】

- 事務作業や販売活動
- 【メンテナンスコース】
- 清掃機械の取り扱い、ビル清掃等

さいたま桜の進路指導

社会で生きて働く力を着実に育み、一般就労の実現と職場定着の向上に向けて

さいたま桜進路決定までのモデルプラン



校訓 「さ・く・ら」の精神

【めざす生徒像】

さわやかな前進

自分から挨拶ができ、物事に積極的に取り組むことができる生徒

くり返しによる自信

日々努力を積み重ね、自分に自信を持てる生徒

らしくする姿勢

自立を目指す桜校生らしく行動し、仲間と共に夢の実現をめざす生徒

本校の特色

■専門教科を中心とした授業

週31、6時間の授業のうち、15、6時間は専門教科です。その他の教科も、『働く力』を育むため、精選した授業内容になっています。

■産業現場等における実習

働きたいという意欲と就労に向けた自信を育み、3年後の就労を目指して、年間1～3週間程度の現場実習を行っています。

■地域との連携

各学科が製造した製品販売（毎週木曜日）や喫茶店の営業（毎週火・木曜日）等を行い、近隣の施設や道路・公園の清掃、地域行事への参加などに積極的に取り組んでいます。

求める生徒像

- 健康管理ができ、毎日休まず登校し学習等に取り組む
- ルールやマナーを守り、周囲と協力して行動することができる
- 障害や特性を理解・受容し、自己を伸ばしたいという意欲がある
- 就労を目指し、体験学習をはじめ学校生活に意欲的に取り組む

さいたま桜のマスコット
サクロウくん

主な行事

桜勇祭（体育祭）

修学旅行

生徒会役員選挙

校外宿泊（1年）

障害者スポーツ大会

桜輝祭（文化祭）

職場見学

校内宿泊（3年）

自立生活訓練（3年）

アビリンピック

部活動

○運動部

陸上競技部・男女バスケットボール部・サッカー部
ダンス部・ウォーキング部・男子バレーボール部

○文化部

音楽部・鉄道部・家庭科部・美術部

さいたま桜高等学園は、障害者の「働きたい！」を応援します

《特別支援学校坂戸ろう学園の活性化・特色化方針》
(令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	聴覚障害	学部・学科	幼・小・中・高	児童生徒数	(男)46 (女)50	計 96
ホームページ	http://www.sakado-sd.spec.ed.jp/					
アクセス	東武東上線 北坂戸駅から徒歩15分					
教育課程等の特徴	・幼稚部は、幼稚部教育要領5領域の発達に関する視点と自立活動六区分の内容に関する視点を取り入れた教育課程を編成しています。 ・小学部、中学部、高等部は小学校、中学校、高等学校に準じた教科学習を行っています。 ・高等部では普通科、産業工芸科の2つの学科を設置し、進路希望に応じた教育課程を編成しています。 ・重複部は個々の障害の状況に応じ、教科別の学習の他に教科等を合わせた指導（日常生活の指導、生活単元学習、作業学習）を行っています。					
特色ある学校行事や部活動	・運動会・体育祭は練習から全校で活動し、学部を越えたかかわりを通して互いを敬う心を育んでいます。 ・あゆみ祭（文化祭）では、学部学級の日頃の学びの成果を工夫した形で発表し、互いの努力を知る機会となっています。 ・部活動は、中学部、高等部の生徒が対象で、一緒に活動しています。 ・陸上競技部、女子バレー部、野球部、卓球部、文化部の5つの部活があります。 ・運動部は、関東聾学校大会や中体連、高体連、高野連の大会に参加しています。					
家庭・地域との連携	・運動会・体育祭及びあゆみ祭において、PTAが企画した活動を行っています。 ・近隣の保育園、小学校、中学校、高等学校と交流会を実施しています。 ・学校公開を年2回実施しています。 ・寄宿舍太鼓サークル「こぼと会」が、坂戸市や地域のお祭りで太鼓演奏を発表しています。					
進路について	・進路選択のため、進学、就職に関する見学や実習を行っています。 主な進学先 筑波技術大学、群馬大学、東洋大学、日本社会事業大学、恵泉女学園大学、和光大学、武蔵丘短期大学、筑波大附属専攻科、大宮ろう学園専攻科 主な就職先 トヨタ自動車株式会社、本田技研工業株式会社、日本電波工業株式会社、イントロン株式会社、株式会社ジェイテクト、株式会社マルイキットセンター、アイシン・エイ・ダブリュ株式会社、菱信データ株式会社、株式会社アダストリア、スズキ株式会社、株式会社松屋フーズ 就労移行等 くるみの木、Office HIRUGAO、Jast、サンフレッシュメイト、多機能型事業所ラボリ、すだち作業所					

(※児童生徒数：R2.5.1 現在、進路は R2.3 卒業生の実績)

県立特別支援学校坂戸ろう学園

幼児児童生徒の成長物語

聴覚障害の特別支援学校

県内には、坂戸と大宮の2校、全国では、分校・分教室を含めると102校あります。
3歳からの幼児児童生徒が学んでいます。
さらに、乳幼児教育相談も設置されていて、0歳児から教育相談を受け付けています。

学校の様子？

- 手話や日本語のコミュニケーション力を高め、学力の向上を図っています。
- ICT等を活用した情報保障の充実や分かる授業づくりに取り組んでいます。
- 在籍人数は、幼稚部から高等部まであわせて96名。学年を超えて助け合う、温か味のある校風が自慢です。
- 学習内容は、幼稚園、小学校、中学校、高等学校に準じた勉強をしています。もちろん、個に応じた指導も大切にしています。
また中・高等部から部活動もあります。最近、大学等への進学希望が増えて、進学に対応できる教育課程も工夫しています。
- 複数の障害を併せ有する幼児児童生徒は、個々の障害の状況に応じて、学習集団を工夫して学習を行っています。

成長物語

幼稚部

先生やお友達といっぱい話し、遊び、できることは自分でやる姿を目指す。
→集団と個別の活動を通じ、個々のきこえ方や発達の特性に応じ指導・支援を行う。

小学部

児童が自ら情報をつかみ、生活に活かそうとする姿を目指す。
→学習や活動の内容、季節やニュース等の情報が適格につかめる掲示物や掲示方法を工夫する。

中学部

手話と日本語の力を身につけ、学習に主体的に取り組むとともに、教員や友達とその場に応じたコミュニケーションがとれる姿を目指す。
→デフフッドの視点から生徒の思考力を深める授業を研究するとともに、育む学校内外問わずコミュニケーションをとる機会を設定し経験を積めるようにする。

高等部

社会で活躍するたくましい大人を目指し、自ら学ぶ生徒を育てる。
→学年に応じた手話・筆談力を養い、個々の生徒の実態に応じた必要な力を身につけるための体験学習を行う。福祉や社会常識、障害認識、発音指導（希望者）は外部講師の指導も含め実施する。

幼稚部（乳幼児教育相談）

乳幼児支援、保護者支援を充実させる。
→子供が自ら考える力を高める活動を設定する。両親が参加しやすい活動を計画する。個々に応じ子育てについて助言を行う。ICTを活用し参加が難しい家庭への支援を行う。

重複部

日常生活や集団・社会生活に必要な力、コミュニケーションの力を身に付ける。
→児童生徒のコミュニケーション手段に応じた教材や方法を充実し、生活で生かせるよう家庭と連携する。

地域支援部

通級指導、教育相談、支援籍学習において、児童生徒のニーズに応じた対応を充実させる。
→相談対応充実のため、部内研修で情報共有し個別の相談に生かす。

寄宿部

生活に見通しを持ち、活動するとともに、集団生活を通じ、人間関係を築く力を育む。
→見通しを持てる環境整備や取り組みを計画的に行い、手話力を向上することで意思表示やコミュニケーションの力を高める。

《埼玉県立狭山特別支援学校の活性化・特色化方針》
(令和３年度～)

１ 学校基本情報

種別	知的障害	学部・学科	小・中学部 (義務教育単独校)	児童 生徒数	(男) 104 (女) 48	計 152
ホームページ	https://sayama-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	西武鉄道 仏子駅下車 徒歩２０分 西武バス狭山市駅西口～狭山グリーンハイツ「根岸新道」下車徒歩２０分					
教育課程等 の特徴	・一人ひとりの児童生徒にそれぞれのニーズに合わせた指導・支援を行う教育内容。 ・見通しを持って学習に取り組むための支援ツールを作成し、分かりやすい視覚支援ツールの活用。 ・ユニバーサルデザインを取り入れた、校内の構造化の推進。 ・小・中学部特別支援学校として、行事・設備共にゆとりのある教育活動の推進。 ・学びの連続性を重視した対応に努め、教職員への理解の浸透。 ・それぞれの指導支援について、学びの連続性の事例研究等の校内での積み上げ。					
特色ある 学校行事や 部活動	・運動会・文化祭において小・中の児童生徒が一丸となり取り組む姿。 ・入間わかくさ高等特別支援学校と運動会、文化祭等をとおして交流を深め、充実した行事の実施。 ・コンピューター等の情報機器（ＩＣＴ機器）の指導支援での活用。					
家庭・地域 との連携	・児童生徒、来校者等すべてに校内の施設、配置、動線が分かりやすくするために掲示物や廊下の表示を工夫。 ・行事において高等部が担ってきた部分について、中学部が中心となって保護者の協力を得ながらの実施。 ・近隣の小中学校との支援籍学習及びセンター的機能による情報交換や指導助言。 ・学校通信（狭特だより）等を通して本校の取組みをさらに広くＰＲし、保護者、地域から信頼される学校づくりの実施。					
進路に ついて	・平成３１年度卒業生２２名の進路は、入間わかくさ高等特別支援学校普通科進学１９名、職業科進学１名。 ・入間わかくさ高等特別支援学校との連携。 ・中学部３年、保護者、教職員対象の見学会、体験学習をそれぞれ実施。 これらの取り組みにより、中学部卒業後のイメージを持てるよう指導。 ・高等部卒業後の視点を大切にしたカリキュラム・マネジメントを計画的・組織的に行い、入間わかくさ高等特別支援学校等と児童生徒、ＰＴＡとの連携を強化。					

(※生徒数は R2.5.21 現在、進路は R2.3 月卒業生の実績値)

育成方針

県立狭山特別支援学校 自分で考え、仲間とともに生きる。



マスコットキャラクター
茶娘ちゃん

学校教育目標

(目指す子ども像)

さ

さえあう

や

りとける

ま

なびあう

児童生徒の力を引き出す多くの行事で育みます

- ☆汗いっぱいがんばる運動会
- ☆歌や踊りをみんなと発表する
びかびか祭り(文化祭)
- ☆みんなと一緒に宿泊学習
遠足、社会体験学習



キャリア教育を推進

- 学習の中での取り組み
- 家庭との連携
- 保護者対象の
進路講演会
- 公開学習会
- 進路先見学会

小学部低学年

- 自分の気持ちを伝え、たくさんの
人と関わり合いながら一緒に活動する。
- ☆「やってみたい」「やってみよう」と自分から取り組む。

中学部

- 集団生活に必要な能力や態度を養い、
よりよく生活していく力を育てる。
- ☆作業学習「紙すき」「農園芸」
「織物・手芸」「革工芸」を通じて仲間
と一緒に学び、楽しむ力をつける。
- ☆卒業後を見据え、目標・希望を持って
見学・説明会・体験学習に参加する。

小学部高学年

- ☆集団を意識し、みんなと一緒に活動
する力を育てる。
- みんなと一緒に楽しく学びあう力を
育てる。



自主性
社会性

支援校では

居住地の小、中学校で
楽しく勉強をします。

個に応じた支援・指導の充実

- 児童生徒が見通しを持ちながら
学習する支援ツールの活用
- 校内構造化への取組み校内表示の充実。

卒業後の進路先

自らの進路選択

高等部普通科

高等部職業学科

高等学園・分校

就労(一般・福祉)

私たちの宣言

私たちは、一人一人を大切に育てる指導の充実を
するために、子どもたちの自立をめざし、
個性を大切にしながら、可能性を最大限に伸ばす
支援を行います。また、支援・指導の充実を
実現するために学級、学年、学部の会議など
で情報を交換し合いながら個々の教育の得意
分野を語り、一人一人の子どもたちの笑顔
に合った指導・支援を進めます。

狭山特別支援学校は、小・中学部の学校です。

《草加かがやき特別支援学校の活性化・特色化方針》
(令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	知的障害	学部・学科	小・中・高等部	児童生徒数	(男) 276 (女) 117	計 393
ホームページ	http://www.kagayaki-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	東武スカイツリーライン 獨協大学前（草加松原）駅 西口下車 徒歩20分					
教育課程等の特徴	・キャリア教育の視点を持ち、12年間の系統性のある教育課程を編成している。 ・小学部では日常生活の指導、各教科、遊びの指導などの時間枠を、必要に応じて多様に設定している。 ・中学部は、高等部との接続を意識し作業学習を2コマ連続して設定している。また、自立活動を毎朝の時間帯と週の始まりと終わりに設定し、個に応じた指導を行っている。 ・高等部は生活基礎、生活総合、生活応用の3類型を置き、個々のニーズに合わせた教育活動を行っている。					
特色ある学校行事や部活動	・3学部合同で力を合わせ、運動会・文化祭を行う。本校のマスコットキャラクターである「きらきらちゃん」も応援にくる。 ・運動会では、全校応援合戦や高等部全員リレー、地域の方や保護者との交流種目がある。 ・文化祭「きらきらまつり」は、全学部のステージ発表や作品展示、中学部・高等部による製品頒布等を行い、学習の成果の発表の場としている。 ・部活動は高等部球技部を中心として陸上大会、バスケットボール大会、サッカー大会に出場し成績を残している。 ・修学旅行、校外宿泊学習、社会体験学習などにおいて、体験的な学習をととして経験の幅を広げている。					
家庭・地域との連携	・授業参観、懇談会、PTA行事等をととして保護者との連携を密にしている。 ・コミュニティカフェを年12回開催し、地域との絆を深めている。 ・近隣の小中学校及び高等学校と交流及び共同学習を行っている。 ・居住地区（草加市・越谷市の一部・川口市の一部）の小中学校において、通常学級支援学習を行っている。 ・巡回相談や教育相談などを実施し特別支援教育における地域支援を行っている。 ・全校奉仕活動で近隣の清掃と美化に取り組み、地域貢献を行っている。 ・ボランティア養成講座を開設し、特別支援教育の理解を進めるとともに、積極的にボランティアを活用している。					
進路について	【令和元年度実績】 ・（高等部3年生61名） 企業就労 13名、就労移行支援 5名、就労継続支援A型 3名、 就労継続支援B型 25名、生活訓練 0名、生活介護 15名、 地域活動センター 0名、在宅 0名 【デュアルシステムと現場実習・校内作業実習の実施】 ・10月に高等部1年生複数名が、地域の企業で5日間の集団での現場実習を行う。 ・デュアルシステムとして、高等部3年生の企業内就労内定者が定期的に週1回以上の企業実習を行う。 ・企業・事業所の協力を得ながら、現場実習、校内作業実習を年3回行う。 【小学部・中学部の進路について】 ・本校の中学部・高等部へそれぞれ進学している。					

(※生徒数：R2.5.1現在、進路はR2.3月卒業生の実績値)

本校の 特色

- ◇ 学校教育目標 豊かな心、元気な体、生きる力を育て、一人一人が輝く
- ◇ 教育内容の特色 キャリア教育の視点に基づいた縦（12年間）と横（3年間）の系統的な指導の充実
- ◇ 地域との連携 保護者や地域と連携した開かれた学校

小学部・目標

- ころもからだも元気な子
- 色々なことにチャレンジしようとがんばる子
- 自分の気持ちや思いを伝えられる子
- 友だちと仲良く楽しく活動する子

中学部・目標

- 基本的な生活習慣を確立し、意欲的に生活する生徒
- たくましく生きていくための、心と体を持った生徒
- 友だちや教員とのやりとりを通して、自分の気持ちをよりよく表現できる生徒
- 自他の役割を意識し、社会で生きていくための生徒

高等部・目標

生活基礎類型

生活総合類型

生活応用類型

- 自立した生活を目指し、仲間や地域社会と積極的に関われる生徒
- 家庭生活や職業生活に必要な能力を高め、進路現実に向けて実践する生徒
- 主体的に物事を考え行動に責任を持つ生徒

小中高一貫した系統性ある指導の充実のために

教育課程検討委員会・研究部の連携、12年間の系統性のある指導への充実・改善を行っている。

重点目標

- 障害特性を踏まえ、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた専門性の高い授業の実践
- 保護者、地域に信頼される開かれた教育課程・学校づくり
- 健康で安全・安心な学校生活を送るための学習環境・施設設備の整備及び働き甲斐のある明るい職場づくり



盛り上がる 運動会



地域とともに 文化祭

個に応じた支援・指導

- ・ 自立活動専任がアドバイザーとなり自立活動の授業の充実を図る。
- ・ 保護者との合意形成に基づいた合理的配慮の実施。
- ・ 外部専門家による支援体制の構築と組織的な専門性の向上。
- ・ 実態把握を的確に行い、それに応じた目標、学習内容、手立ての設定と実施。

保護者・地域への情報 発信と連携の強化

- ・ 授業参観・懇談会を実施し保護者との連携を図る。
- ・ ホームページは計画的に最新情報を掲載し、情報発信していく。
- ・ 校内掲示を充実させ、より積極的に情報発信を行う。
- ・ 地域に開かれたコミュニティカフェを定期的に開催する。
- ・ 支援籍、学校間交流の円滑な実施。

安全・安心な教育環境の整備

- ・ 毎月の安全点検の実施と迅速な修繕の実施
- ・ 避難訓練、交通安全指導の実施。
- ・ 食物アレルギー対応、救急救命法、不審者対応訓練の実施。
- ・ 教職員倫理確立を目指す研修の実施

地域への貢献

- ・ 近隣の奉仕活動を全校で行い、社会貢献を図る。
- ・ 特別支援教育のセンター的機能を発揮し、地域の特別支援教育の充実を図る。

みんなのアイドル
きらきらちゃん

草加かがやき特別支援学校は、児童生徒一人一人を大切にする指導を行います



《草加かがやき特別支援学校草加分校の活性化・特色化方針》
(令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	知的障害	学部・学科	高等部 普通科	児童 生徒数	(男) 30 (女) 17	計 47
ホームページ	https://kagayaki-sh.spec.ed.jp/sokabunko/					
アクセス	・東武スカイツリーライン「新田駅」より徒歩25分 ・「新田駅東口」発「獨協大学前駅西口」行きの朝日バスで「草加西高校入口」バス停下車 徒歩4分 ・ＪＲ京浜東北線「川口駅東口」発「安行出羽」行きの国際興業バスで「安行診療所入口」バス停下車 徒歩5分					
教育課程等の特徴	・社会で自立できる力と自信を身に付けるために必要な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成を通して、学びに向かう力、人間性を養う。 ・新学習指導要領に即した教育内容を実施するため、新しい教育課程の編成を行った。 ・新課程では、1日を通した職業の授業を週2日実施。他の教科においても、キャリア教育の視点に加え、新学習指導要領の目標（第1段階・第2段階）と照らし合わせた学習内容となるよう、昨年度と今年度の2か年をかけて新しいシラバスの作成を行っている。 ・一人一人に応じた指導・支援を行い、安全で安心な学校生活が送れるように支援体制を充実させている。 ・草加西高校や地域社会と積極的に交流・連携し、インクルーシブ教育を進めている。					
特色ある学校行事や部活動	・草加西高校との共同開催の行事。（体育祭、文化祭、ロードレース大会、職業の授業交流、緑化交流） ・NHK全国学校音楽コンクールに全校生徒で出場。 ・社会体験学習、宿泊体験学習、修学旅行を通して自主性、協調性、自立心を培う。 ・週3回の部活動（運動部・パソコン部・美術家庭部・音楽部）					
家庭・地域との連携	・連絡帳、学年通信、各種たより、ホームページでの情報発信。 ・授業参観、保護者会、個別面談の実施。 ・学校説明会・体験入学の実施。 ・企業向け学校公開の実施。 ・外部講師による職業の授業支援や発達相談の実施。 ・食品加工班が西高生・職員向けパン販売を実施。 ・工芸班が浦和まつりで製品販売を実施。 ・農園芸班が西高生やかがやき本校に野菜の頒布、近隣の方に頒布と収穫体験を実施。 ・メンテナンス班が地域の会館等で清掃活動を実施。 ・職業教育フェアへの参加。 ・産業現場等における実習の実施。					
進路について	・進路状況：一般就労16名（特例子会社を含む） ・進路先の傾向：全員が企業就労を希望。業種は小売店舗（品出し）・清掃・工場（製造補助）・飲食店（調理補助）・流通（ピッキング）・事務作業（PC入力）等					

（※児童生徒数：R2.5.1 現在、進路は R2.3 卒業生の実績）

埼玉県立草加かがやき特別支援学校草加分校 育成方針

学校教育目標

豊かな心、元気な体、生きる力を育て、一人一人が輝く

分校教育目標

自立 共生 健康

1年：元気

社会に必要な
生活習慣・作業態度を
身につける

2年：やる気

社会に必要な
生活習慣・作業態度を
伸ばす

3年：本気

社会に必要な
生活習慣・作業態度を
確かなものにする

卒業後

自立と
社会参加の
実現

職業の学習、教科学習、自立活動、行事、部活動、
高校や地域との交流活動、校内・現場実習

職業



教科



行事



埼玉県立草加西高等学校

埼玉県立草加かがやき特別支援学校草加分校

体育祭



西秋祭(文化祭)



ロードレース
大会



緑化交流



職業交流



西高・分校の共同開催行事

《秩父特別支援学校の活性化・特色化方針》
(令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	知的障害 肢体不自由	学部・ 学科	小・中・高等部 訪問部	児童 生徒数	(男) 91 (女) 38	計 129
ホームページ	http://www.chichibu-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	秩父鉄道秩父駅から徒歩 30 分					
教育課程等 の特徴	・児童生徒それぞれの障害特性や実態に応じた教育指導を実施 ・自立活動（時間における指導）を全学部で実施し、一人一人の教育的ニーズに対応 ・高等部は、生徒の課題別に教育課程の複数化を平成29年度から実施 ・令和2年度より、新学習指導要領を踏まえ、下校時刻や週授業時数等を見直し新たな教育課程を編成・実施					
特色ある 学校行事や 部活動	・知的障害教育部門、肢体不自由教育部門ともに、全校をあげて取り組む「運動会」や「かがやき祭（文化祭）」などの学校行事 ・PTA主催で夏季休業中に行うサマースクール ・天満敦子氏を迎えてのバイオリンコンサートの芸術鑑賞会 ・各学部や学年で発達段階に応じた目標を実現するための、宿泊学習、社会体験学習、修学旅行などの集団での行事 ※令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、中止、延期、或いは内容を変更しての実施となっている。					
家庭・地域 との連携	・学校公開を年2回実施（その他、随時行事等において、学校公開を実施） （令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の為年1回の実施） ・交流および共同学習を実施（秩父第一小学校と小学部の年間を通しての交流など、令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の為2学期より実施） ・秩父地区特別支援教育研究会による連携（秩父地区の小中学校等との合同研修会） ・年間をとおした支援籍学習による地域の小中学校との連携 （令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の為時期や回数を変更しての実施） ・令和2年度より、ロードサポート事業を開始 ・令和2年度、秩父市役所にて、本校の理解啓発事業を実施					
進路に ついて	・令和元年度卒業生進路先（高等部卒業生17名） 一般就労 8名 福祉的就労 9名 （進路先開拓とともに産業現場等の実習を年2回2週間ずつ実施している。）					

（※児童生徒数：R2.5.1 現在、進路は R2.3 卒業生の実績）



埼玉
県立

秩父特別支援学校

児童生徒の成長物語

学校教育目標

社会的に自立できる人間をめざし、心身ともに健全な児童生徒を育成する。

小学部目標

- ・ 身辺処理の基礎を築く。(知的)
- ・ 生活のリズムを整える。(肢体)

中学部目標

充実した日常生活のために

- ・ 身辺処理の技能、習慣を身につける。(知的)
- ・ 一日の生活の見通しを持って、生活のリズムを整える。(肢体)

高等部目標

- ・ 充実した日常生活に必要な基礎的・応用的知識と技能を身につける。(知的)
- ・ 基礎的な生活習慣を確立する。(肢体)

安定した社会生活のために

- ・ 将来に向けて、一人のできることを増やす。(知的)
- ・ 学習や行事を通して、経験の幅を広げる。(肢体)

- ・ 職業生活における必要な習慣形成や作業能力の基礎を養う。(知的)
- ・ 学習や行事を通して、一人のできることを増やす。(肢体)

- ・ 充実した社会活動を円滑に送ることのできる指示理解力や作業能力育成する。(知的)
- ・ 一人のできることを増やし、自己実現を図る。(肢体)

よりよい人間関係形成のために

- ・ コミュニケーションの基礎を築き、安心して集団活動に参加できる。(知的)
- ・ みんなと仲良く活動し、人との関わりを豊かにする。(肢体)

- ・ 自発的にコミュニケーションをとり、集団活動へ積極的に参加する。(知的)
- ・ 集団の中の自分を自覚し、信頼と協力の心を育てる。(肢体)

- ・ 集団生活の中でのコミュニケーションを通して、良い人間関係を築くと共に社会参加に必要な能力と態度を身につける。(知的)
- ・ 社会性を養い、自己表現の力を身につける。(肢体)

健康な生活のために

- ・ 元気な心と身体を身につける。(知的)
- ・ 心と身体を元気に保つ。(肢体)

- ・ 運動やスポーツを楽しみ、何事も最後まで取り組める気力や体力を身につける。(知的)
- ・ 心と身体の健康の大切さがわかる。(肢体)

- ・ 運動を楽しみ、生涯スポーツとして続けられる基礎を作り、心と身体の健康維持や就労に耐える体力を身につける。(知的)
- ・ 心と身体の健康維持を意識して、体力を増進する。(肢体)

心豊かな人生のために

- ・ 興味関心を広げ、意欲的に学習する。(知的)
- ・ さまざまな学習活動を通して、興味関心を広げる。(肢体)

- ・ 将来に向けて視野を広げ、興味関心を深め、向上心をもって学習する。(知的)
- ・ 社会に必要な基礎的な学力を身につける。(肢体)

- ・ 将来の生活で必要な力を伸ばすと共に、主体的に学び続ける資質や能力を高める。(知的)
- ・ 主体的に取り組むことで、社会に必要な学力を伸ばす。(肢体)

訪問教育部目標

充実した日常生活のために
安定した社会生活のために

- ・ 生活のリズムを整える。
- ・ 学習や行動を通して、経験の幅を広げる。

よりよい人間関係形成のために

健康な生活のために
心豊かな人生のために

- ・ 活動を通して、人との関わりを豊かにする。
- ・ 心と身体を元気に保つ。
- ・ さまざまな学習活動を通して、興味関心を広げる。

自己実現

《所沢特別支援学校の活性化・特色化方針》
(令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	知的障害	学部・学科	小学部・中学部	児童生徒数	(男) 113 (女) 40	計 153
ホームページ	http://www.tokorozawa-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	西武新宿線「航空公園駅」から西武バスで約14分。航空公園駅東口・2番バス乗り場から「エステシティ所沢」行き(約9分)バス停「所沢聖地霊園」下車5分。					
教育課程等の特徴	・カリキュラム・マネジメントの推進 ・社会に開かれた教育課程づくり ・児童生徒の実態把握の手法を全校で統一(太田ステージ評価) ・PDCAサイクルに基づいた個別の教育支援計画、個別の指導計画 ・外部専門家(カウンセラー・太田ステージ専門家・言語聴覚士・理学療法士等)の活用と授業改善。					
特色ある学校行事や部活動	・学部間の交流を図り、楽しみながら互いを認め合う運動会。 ・協力して学習の成果を発表するトコトコフェスティバル(文化祭)。 ・開校以来41年続く県立所沢高等学校吹奏楽部&バトン部の演奏会 ・亜細亜大学吹奏楽部の演奏会 ・PTA主催行事の芸術鑑賞会					
家庭・地域との連携	・学校公開を年2回実施し、開かれた学校づくりを推進。 ・特別支援教育公開講座を年3回実施。福祉や関係機関との連携、本校の実践を中心とした愛着障害、太田ステージ評価の活用等、本校の専門性を地域に発信。 ・就労支援アドバイザーによる保護者向け進路懇談会等の実施。 ・所沢市立伸栄小学校との交流会(小学部高学年) ・所沢市立富岡中学校との交流会(中学部) ・PTA主催行事の「夏祭り」を実施し、地域や市内福祉作業所との交流を図っている。					
進路について	・埼玉県立入間わかさ高等特別支援学校普通科 12名					

(※生徒数：R2.5.1現在、進路はR2.3月卒業生の実績値)



県立所沢特別支援学校 ～児童生徒の成長物語～

学校教育目標 なかま わかる きぼう

目指す学校像
子どもの立場に立ち 良さを見つけ 可能性を拡げる学校

<学校の紹介>

- ・学区は所沢市一市のみ
- ・小中学部単独校（平成28年度より）としての教育活動
- ・児童生徒の障害の多様化への対応

<小学部低学年の目標>

- ・大人や友だちとの関わりをもち、集団で過ごすことの楽しさを知る。
- ・わかった、できたという経験を通し、興味関心を広げ、主体的に取り組む。
- ・健康で丈夫な体を作り、自分の気持ちを豊かに表現する。

<小学部高学年の目標>

- ・友だちを意識し、一緒に活動する楽しさを知る。
- ・いろいろな経験を積み重ね、自分から取り組む意欲を育む。
- ・好きなことを見つけ、自信をもって、自分の力を発揮することができる。

<中学部の目標>

- ・人との関わりを大切にし、豊かな心を育む。
- ・自ら学ぶことの楽しさを知り、認識を高め、興味関心を広げていく。
- ・様々な経験を基に、自分の将来を見据え、社会性を培う。

<学校の特色>

- ・保護者、地域、所沢市との連携
- ・進路先高等部への橋渡し（移行支援）
- ・『特別支援学校の新たな学び推進プロジェクト』（平成30、31年度）
- ・太田ステージ評価の活用
- ・教育環境の整備・ICT機器の活用
- ・PDCAサイクルに基づいた教育支援プランの策定
- ・外部専門家、外部機関との連携と活用

<学校宣言>

私たちは児童生徒一人ひとりの「見て・聞いて・感じている世界」を理解することから出発し、そのニーズに応え、可能性を最大限に引き出す学校づくりに努めます。児童生徒についてチームで常に話題を共有し、特に指導・支援が必要な場合には、全校的な視野で、外部の専門家とも連携しながら対応します。

＜所沢おおぞら特別支援学校の活性化・特色化方針＞
(令和３年度～)

1 学校基本情報

種別	知的障害 肢体不自由	学部・ 学科	小学部 中学部 高等部	児童 生徒数	(男)205 (女) 87	計 2 9 2
ホームページ	http://www.oozora-sh.spec.ed.jp//					
アクセス	◆JR 武蔵野線 東所沢駅から ○ところバス 東路線（柳瀬循環コース）左回り 『やなせ荘入口』下車 徒歩 7 分（約 0.4 km） ○西武バス「エステシティ所沢」行き 『やなせ荘入口』下車 徒歩 7 分（約 0.4 km） ◆西武新宿線 航空公園駅から ○ところバス 東路線（柳瀬循環コース）右・左回り 『やなせ荘入口』下車 徒歩 7 分（約 0.4 km） ◆東武東上線 みずほ台駅から ○ライフバス みずほ台駅西口（上富三芳町役場経由）鶴瀬駅西口折り返し線『竹下工業前』下車 徒歩 22 分（約 1.5 km）					
教育課程等 の特徴	本校では、小学部・中学部・高等部の 1 2 年間の系統性を大切にし、児童生徒一人一人の特性と実態に合わせた指導を行っています。 【肢体不自由・知的障害共通】 ・外部専門家（臨床心理士、言語聴覚士、理学療法士等）との連携による、教員のスキルアップ ・新学習指導要領に基づいた教育課程の編成に向けた検討 【肢体不自由教育部門】 ・個に応じた指導と、県教育委員会の体制整備事業に基づく医療的ケアの充実 【知的障害教育部門】 ・小学部・中学部における個に応じた学習の充実（国語、算数・数学、自立活動） ・高等部における教育課程の複数化（3つのコース設定）、作業学習（社会のニーズに配慮した作業種の設定）、家庭（卒業後の生活に結びつく指導内容の設定）や産業現場等における実習（個々の進路希望に即した実習方法の工夫）の充実					
特色ある 学校行事や 部活動	・県の陸上競技大会には選抜で選手が出場している。 ・全校一丸となって文化祭に取り組んでいる。 ・宿泊学習や社会体験学習などを通して、経験領域の拡大を目指している。					
家庭・地域 との連携	・学校公開を年 3 回実施。 ・近隣の小・中・高校との交流及び共同学習。 ・柳瀬地区文化祭に参加し、作品を展示。 ・高等部は公民館での清掃活動を実施。					
進路に ついて	令和 2 年 3 月卒業生の進路について 高等部卒業生 3 9 名 （内訳：企業就労 7 名 福祉的就労 3 1 名） 例年、企業就労は 2 割、施設などへの福祉的就労が 6～8 割となっている。 【企業就労】スーパー・小売・レストラン厨房・製造・加工（食品、紙製品、構内清掃、事務軽作業等）、物流（倉庫作業等）・介護施設・病院（清掃、厨房等）、クリーニング、農作業など 【福祉的就労】所沢市、志木市、新座市、ふじみ野市、富士見市等の福祉施設に就労 ※小学部・中学部の生徒は、それぞれ中学部・高等部へ進学している。					

（※生徒数：R2.5.1 現在、進路は R2.3 月卒業生の実績値）



所沢おおぞらの子供達の成長物語

～卒業後、地域社会の中で自分らしく生き生きと生活していく将来のために～

学校教育目標

のびのびと きずな深めて たくましく

目指す学校像

社会の中で自立的に生活できる力を育む学校

教育基本方針

目指す学校像を具現化するために

「児童生徒一人一人の実態に即した個別的教育支援プランA・Bに基づく継続的・発展的なきめ細かな指導を行う。」

特に重点事項として次の三つのことに取り組む。●個に応じた指導の充実 ●自立活動の充実 ●キャリア教育の推進

		小学部	中学部	高等部
継続的・発展的なきめ細やかな指導	個別的な指導の充実	知的障害部門において毎日「国語・算数(数学)/自立活動」の時間を設定 		教育課程の複数化 
	自立活動の充実	個々の障害による学習上の困難を改善・克服するための継続的指導 		
	キャリア教育の推進	社会の中で自立的に生活できる力を育む教育 		

教員

指導力の向上

学校研究の推進・研修・専門性の充実

医療的ケア

学校管理下(登下校時は除く)において、看護教員及び研修を受けて任命された教員が連携協力して実施します。

地域や保護者との連携

- 支援籍学習(小学部・中学部)
- 地域支援
- 教育相談
- ボランティア養成講座開催
- 公開講座開催
- 家庭での学習
- PTA活動

＜＜蓮田特別支援学校の活性化・特色化方針＞＞
(令和３年度～)

1 学校基本情報

種別	病弱 肢体不自由	学部・ 学科	小・中・高等部	児童 生徒数	(男) 65 (女) 42	計 107
ホームページ	http://www.hasuda-sh.spec.ed.jp					
アクセス	ＪＲ宇都宮線蓮田駅東口より朝日バス「国立東埼玉病院」下車、徒歩７分					
教育課程等 の特徴	・県内唯一の病弱・肢体不自由併置校。 ・病弱部門は隣接する国立病院機構東埼玉病院に入院または通院する児童生徒対象。 ・教育課程の類型を基本にした、一人一人のニーズに応じた多様な教育課程。 ・病弱部門、肢体不自由部門ともに訪問教育を実施（病棟訪問、在宅訪問）。 ・ＰＴ、ＯＴ、ＳＴ等の外部専門家との連携を生かした自立活動の指導。 ・ＩＣＴ機器を活用した学習やコミュニケーションの指導。視線入力、オンラインでの授業、３Ｄプリンタの活用、プログラミング学習の一環でのロボット相撲大会への参加等のＩＣＴ教育を展開している。					
特色ある 学校行事や 部活動	・宿泊学習、社会体験学習等を通して経験を拡大。卒業後の自立した社会生活を見通した自主性・主体性の涵養。 ・病棟生と通学生と一緒に参加し作り上げる運動会、はすとも祭（文化祭）。 ・高等部の余暇活動の実施。 ・中学部・高等部有志でローリングバレー、ボッチャ、電動車いすサッカー、陸上競技会等へ参加。					
家庭・地域 との連携	・学校公開を年３回実施。 ・市町教育委員会との連携による就学・転学に係る教育相談の実施。 ・近隣の小中高校との交流及び共同学習の実施。 ・小中学部では居住地校との支援籍学習（交流及び共同学習）を実施。 ・「学区域連絡会」を開催。学校の教育活動を理解していただき、分科会で情報交換。					
進路に ついて	・『一人一人に合わせた進路指導』の実践 小１から「進路・生活調査」の実施により、個別の移行支援計画を作成。 学区市町関係機関や事業所との連携 高等部における実習、進路を語る会、実力テスト、企業向け学校公開等 ・令和元年度卒業生（１０名）の進路先 通信制大学（１名）、東埼玉病院（２名）、生活介護事業所（６名）、 在宅職業訓練（１名）					

（※生徒数：Ｒ２.５.１現在、進路はＲ２.３月卒業生の実績値）

2 育成方針（埼玉県立蓮田特別支援学校 ～児童生徒の成長物語～）



埼玉県内唯一の病弱・肢体不自由併置校
埼玉県立蓮田特別支援学校

校訓
明るく・心豊かに・夢の創造

病弱部門

隣接する（独）国立病院機構東埼玉病院に入院または通院している児童生徒。

肢体不自由部門

蓮田市、伊奈町、上尾市（高崎線の東側）、さいたま市見沼区、緑区の全域、さいたま市北区、大宮区、浦和区、・南区の高崎線より東側の地域にお住まいの児童生徒

個に応じた教育課程（類型別の教育課程）

類型Ⅰ	類型Ⅱ	類型Ⅲ	類型Ⅳ
・小中高の当該学年の教科の教育内容	・小中高の前学年の教科の教育内容	・知的障害特別支援学校に準ずる教育内容	・自立活動を主とする教育内容

一人一人の学習の状況に応じて適宜変更見直しを行っています。

小学部

- ・《小学部目標》
 - ・基本的な生活習慣を身につけ、健康を保つ
 - ・自分の世界を広げ、自ら考え、表現しようとする気持ちを高める
 - ・人とのかかわりを通して対人関係の基礎を築く
- ・《主な学部行事》
 - ・社会体験学習 校外宿泊学習 修学旅行
 - ・蓮田市立黒浜南小学校との交流会 等

支援籍学習

（交流及び共同学習）
居住地の小・中学校での学習を年2～3回程度行っています。

中学部

- ・《中学部目標》
 - ・心の安定を図り、健康な身体と豊かな心を養う
 - ・個々の能力を生かし、自ら学ぼうとする力を育てる
 - ・コミュニケーションの力を高め、社会性を育てる
- ・《主な学部行事》
 - ・社会体験学習 校外宿泊学習 修学旅行
 - ・蓮田市立黒浜西中学校との交流会 等

運動会・文化祭

全校行事の運動会、はすとも祭（文化祭）は、主に体育館で行っています。病棟の児童生徒も看護師の協力を得て参加しています。本校マスコットのハッシー君も登場します。

高等部

- ・《高等部目標》
 - ・病気や障害の理解を通して、生活への意欲を高め、主体的な生き方ができるようにする
 - ・社会的経験を広げ、相手を意識し、社会生活に必要な知識・技能を身につける
 - ・生活を豊かにするために、人や物にかかわりながら、コミュニケーション能力を高める
- ・《主な学部行事》
 - ・社会体験学習 校外宿泊学習 修学旅行 産業現場等における実習
 - ・県立蓮田松韻高等学校との交流会 等

本校
マスコット
ハッシー君



【主な進路先】

福祉事業所（生活介護 就労移行支援） 一般就労 進学 継続療養 等

様式

《特別支援学校埼玉一学園の活性化・特色化方針》
(令和３年度～)

１ 学校基本情報

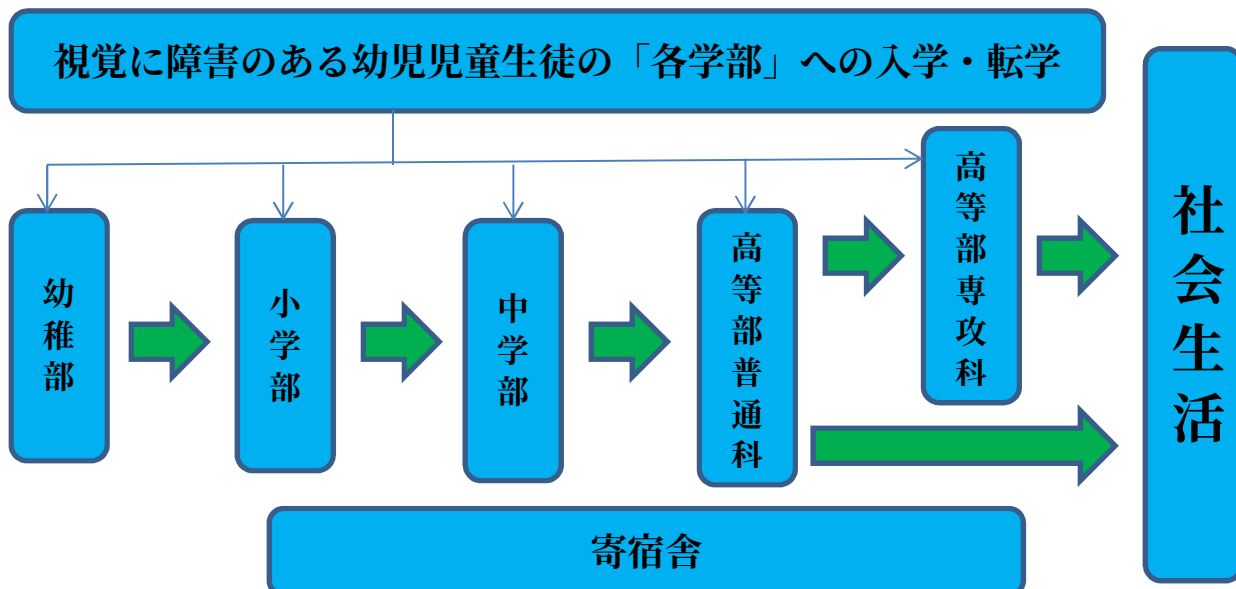
種別	視覚障害	学部・学科	幼稚部・小学部・中学部 高等部普通科・高等部専攻科	児童 生徒数	(男) 77 (女) 51	計 128
ホームページ	http://www.mo-sb.spec.ed.jp/					
アクセス	ＪＲ川越線 笠幡駅下車 徒歩２０分					
教育課程等 の特徴	①視覚に障害のある幼児児童生徒のための学校で、点字や拡大文字などを使って、それぞれ幼稚園、小学校、中学校、高等学校に準ずる教育を行っています。 ②視覚障害と他の障害のある幼児児童生徒に対しては、発達段階に応じた教育を行っています。					
特色ある 学校行事や 部活動	学校行事 ①体育祭：幼稚部・小学部・中学部・高等部普通科の合同体育祭です。 ②霜月祭（文化祭） ステージ発表、展示、模擬店などの全学部合同文化祭です。 ③寄宿舎夏祭り・餅つき大会 地元自治会とタイアップした寄宿舎の行事です。 部活動 ①陸上競技部 全国障害者スポーツ大会毎年度出場 ②球技部 平成３０年度全国盲学校フロアバレーボール大会優勝					
家庭・地域 との連携	①体育祭、霜月祭（文化祭）、マラソン大会等の学校行事における保護者のバックアップ ②地域に開かれた専攻科のマッサージ等治療室（地域に開かれた学校） ③地元自治会と連携した「夏祭り」「餅つき大会」の開催 ④ＰＴＡが主催する「点字ブロック理解推進キャンペーン」開催（ＪＲ東日本・東武鉄道との連携） ⑤「電車」「ホーム利用」「ホーム下避難場所」の体験学習の開催（西武鉄道との連携）					
進路に ついて	①高等部普通科の主な進路先 大学、国立障害者リハビリテーションセンター、福祉サービス事業所、高等部専攻科 ②高等部専攻科の主な進路先 国家資格取得者 合格者多数 就職（一般企業、病院、治療院、施設、自営開業等） ※一部過年度も含む					

（※児童生徒数：R2.5.1 現在、進路は R2.3 卒業生の状況）

2 育成方針（児童生徒の成長物語）



特別支援学校塙保己一学園 視覚障害に応じた特別な支援を行う学校



本校では、自立した社会人を目指し、幼稚部、小学部、中学部、高等部普通科、高等部専攻科が設置されており、視覚障害のある（あるいは他の障害もある）幼児から成人まで学ぶことができる特別支援学校です。

視覚障害に応じた特別な指導として、幼児児童生徒一人ひとりの自立を目指し、障害に基づく様々な困難を改善・克服するために必要な知識や技能を学ぶ「自立活動」を行っています。主に、感覚を活用して、自分で予測、確かめていく習慣を大事に、生活動作や歩行、移動、点字、視覚補助具や機器の利用等の学習を行っています。次に、各学部等の教育を紹介します。

（1）幼稚部の教育

幼稚部では、3才以上のお子さんに、遊びや日常生活を通して、食事、衣服の着脱、排泄などの基本的な生活習慣を身につける保育を行っています。

（2）小学部の教育

小学部では、小学校の教育に準ずる教育等を行っています。児童一人ひとりの障害や学習課題に合わせて、個別や集団での学習を行っています。《体育祭ダンス》

（3）中学部の教育

中学部では、中学校の教育に準ずる教育等を行っています。生徒一人ひとりの課題に応じた学習グループを編成し、きめ細やかな指導を行っています。

（4）高等部普通科の教育

高等部普通科では、高等学校（普通科）の教育に準ずる教育等を行っています。生徒一人ひとりの障害の特性に応じたグループ編成による一人ひとりを大切にする教育を行っています。

（5）高等部専攻科の教育

高等部専攻科では、職業的な自立を目指して、現代医学や東洋医学の基礎知識、あん摩・マッサージ・指圧、はり、きゅうの基本的技術、技能を系統的な学習を行っています。

（6）寄宿舎

寄宿舎では、生活のリズムや身辺自立の力、友達と関わる力、自分の手で生活を築く力を育てるようにしています。

《特別支援学校羽生ふじ高等学園の活性化・特色化方針》
(令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	知的障害	学部・学科	高等部・職業学科	児童 生徒数	(男) 81 (女) 37	計 118
ホームページ	http://www.hanyufuji-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	東武伊勢崎線または秩父線「羽生駅」下車 徒歩25分					
教育課程等 の特徴	・農業技術科（農業コース、園芸コース）と生活技術科（フードデザインコース、メンテナンスコース）の2学科4コースを設け、就労に向けた意欲と態度の醸成を図る。 ・企業就労と定着のために、一般教科と専門教科両方をバランスよく学び、1年次より企業での現場実習を取り入れ、社会自立に向けた基礎知識や社会性を習得する。 ・学習は、教科ごとに3年間の学習指導計画を作成し、系統だった学習指導を行う。					
特色ある 学校行事や 部活動	・宿泊棟での「宿泊学習」、「社会体験学習」、専門教科での豊富で多様な「校外学習」等をとおして、良好な人間関係を作るコミュニケーション能力の育成を図っている。 ・陸上、サッカー、バスケットボール、音楽、総合文化の5つの部があり、各部とも熱心に活動に取り組んでいる。各種大会で入賞を果たし、発表会や催事で活躍している。 ・体育祭、ふじ学園祭、マラソン大会等全員参加の行事は、活気にあふれている。 ・ふじ学園祭では、例年、生徒による「ライオンキング」の発表が好評を得ている。					
家庭・地域 との連携	・年間を通じて、専門教科で作る農作物、草花、パン菓子類を校門前や近隣の催事で販売し、また公共施設（駅や役所等）での清掃活動や植栽を行い、地域貢献をしている。 ・学校説明会、企業向け学校公開を実施し、地域の方々が多数来校。 ・体験入学や市内中学校支援学級との交流授業を実施。 ・文化祭が市内の高校や催事でパフォーマンスを披露。 ・「環境整備活動」を年に複数回実施。全員で通学路の清掃、草取りやゴミ拾いを行い、美化活動を推進。					
進路に ついて	・生徒一人一人の能力・特性を的確に把握し、職業教育及び職場実習をとおして最大限に得意分野を伸ばすとともに、関係機関と連携し、適性に応じた進路選択を支援している。 ・卒業生の職場定着状況を可能な限り把握し、関係機関と連携して、継続的に支援する。 ・開校以来、企業就労と定着を目指し支援しており、開校から昨年度まで416名が卒業し、社会に巣立っている。令和元年度卒業生は39名。そのうち、36名が企業等に就労した。					

(※生徒数：R2.5.1 現在、進路は R2.3 卒業生の実績値)

県立特別支援学校羽生ふじ高等学園～生徒の成長物語～



コバトン &
さいたまっち

本校の 特色

- ◇目指す学校像・・・ ●生徒一人一人の主体的な学びを大切にし、働く力を伸ばす学校
●生徒一人一人の進路実現を目指し、社会自立と社会貢献のできる人材を育成する学校

学科・コース

農業技術科

- ・農業コース
- ・園芸コース

生活技術科

- ・フードデザインコース
- ・メンテナンスコース

一般教科

国語・数学
音楽・美術
保健体育
家庭・情報



授業風景

第1学年

- 就労することへの理解と意識を高める。

- ・専門科目＋一般科目
- ・「職業」「LHR」
- ・職場見学／職場実習（1回）

目指す生徒像



ふ 不屈の心で
じ 自立を目指し
の 伸びやかに
は はつらつと
な 何事も最後まで
やり遂げる生徒

校訓：『協力』『自立』『明朗』

第2学年

- 就労に向けての適性や課題を理解し、必要に応じて改善する。

- ・専門科目＋一般科目
- ・「職業」「LHR」
- ・チャレンジ実習／社会科見学
- ・職場実習（2～3回）

《行事》



マラソン大会



文化祭
(ライオンキング)



主権者教育

第3学年

- 主体的に自分の進路を考え、就労を目指す。

- ・専門科目＋一般科目
- ・「職業」「LHR」
- ・求職登録、支援センター登録、重度判定等
- ・職場実習（就労決定迄）

《教科外の教育》

人権教育
主権者教育
性教育
防災教育
非行防止・防犯教育
福祉教育
など



環境整備活動



マスコットの
「はーにー」 &
「フージー」も応援しています。

卒業後

〔定着支援〕

家庭・企業
支援センター
ハローワーク
福祉課など
との連携



『職業』



生徒総会



《東松山特別支援学校の活性化・特色化方針》
(令和３年度～)

1 学校基本情報

種別	知的障害	学部・学科	小・中・高	児童 生徒数	(男) 109 (女) 36	計 145
ホームページ	http://www.higashimatsuyama-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	東武東上線 森林公園駅（北口）より徒歩約２５分					
教育課程等 の特徴	・全校で共通のアセスメントを実施し、児童生徒一人一人の課題について教職員間の共通理解を図る。また、系統的な指導に生かす。 ・高等部は生徒の教育的ニーズ、進路希望などを考慮し、２年次より教育課程を生活総合・生活応用の２コースに分け、より個に応じた指導を行っている。					
特色ある 学校行事や 部活動	・全校行事として、毎年１０月に文化祭「まつぼっくり祭」を実施している。 ・中・高は部活動を行っている。特に高等部の運動部では、毎年特体連で行われる陸上、バスケット、サッカー大会に参加している。 ・６月に「進路フェア」を実施し、作業所等を招き、情報収集、体験等とおし、生徒・保護者の進路意識の高揚を図っている。					
家庭・地域 との連携	・親子で楽しむ機会として、ＰＴＡが中心となってＰＴＡまつりを開催。 ・学校公開を年２回実施。 ・小学部は市の川小学校、中学部は近隣市町中学校７校、高等部は東松山市内高校２校と交流会を実施。 ・東松山市内たんぼぼ作品展、熊谷市夢いっぱいアート展に作品を展示。					
進路に ついて	・小学部・中学部の児童生徒はそれぞれ、中学部・高等部に進学している。 ・高等部では、保護者対象の説明会を実施して情報提供を行っている。 ・令和２年３月の高等部卒業生は約８割が福祉的就労、約２割が企業就労。 【福祉的就労先】東松山市、比企郡、熊谷市及び近隣市町の福祉施設に就労 【企業就労先】小売販売業、飲食業、老人ホーム、リサイクル等					

(※生徒数：R2.5.1現在、進路はR2.3月卒業生の実績値)



育成方針

県立東松山特別支援学校

～児童生徒の成長物語～

松特は、一人一人を
大切にした指導の
充実を目指します。

目指す児童生徒像

- ・元気でたくましい児童生徒
- ・自ら考え、行動できる児童生徒
- ・仲間を思いやり、仲良くできる児童生徒

高等部では・・・

- 1 社会生活に必要な習慣や知識、職業生活に係わる技能や実践的な態度を身に付ける。
- 2 社会の関わりの中で、①様々な見方・考え方を働かせて、意見や考えを主体的にまとめる力を育てる、②物事を多面的・多角的にとらえ、自分の生活と結びつけて考え、表現する力を養う。
- 3 ①働くことの大切さを知り、地域社会の参加への見通す力や意欲を育てる、②仲間を大切に、協力し合える力を育てる、③スポーツや文化芸術活動に親しみ、生活を豊かにできる力を育てる。

小学部では・・・

- 1 生活に必要な習慣や技能、健康な生活に必要な事柄を身に付ける。
- 2 友達や先生との遊びや学習の中で、①自分の感じたことや要求を伝えたい気持ちを育てる、②自分の気持ちや要求を表現する力を育てる。
- 3 友達や先生と一緒に活動する楽しさや喜びを感じ、①楽しく明るい学校生活をおくる、②意欲や自信を持って、学んだことを学習や生活に生かす。

個に応じた支援・指導

- ・アセスメントの実施による児童生徒の実態把握
- ・個別の支援計画、個別の指導計画の作成

関係機関との連携

- ・市町村教育委員会との連携
- ・福祉行政との連携
- ・就労支援センター等との連携

地域との連携

- ・コーディネーターを中心とした地域支援
- ・地域の作業所や企業などにおける現場実習

保護者との連携

- ・保護者会、授業参観、個別面談等
- ・PTA活動

学校行事

まつぼっくり祭では全校で取り組み、学習の成果を発表します。

支援籍学習

居住地の小中学校で学習します。

交流及び共同学習

小・市の川小学校
中・8校交流会
高・3校交流会

中学部では・・・

- 1 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図る態度を育てる。
- 2 友達と互いに信頼し、自分の考えや意見を相手に伝える力を育てる。
- 3 様々な経験を通して、興味や関心をもって地域や社会と主体的に関わりようとする力を育てる。



1 学校基本情報

種別	肢体不自由	学部・学科	小学部・中学部 高等部普通科・訪問教育部	児童 生徒数	(男) 71 (女) 63	計 134
ホームページ	http://www.hidaka-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	西武新宿線狹山市駅より智光山公園行きバス25分、智光山公園バス停下車徒歩5分					
教育課程等の特徴	・児童生徒の実態に応じた4つの教育課程がある。 - 類型Ⅰ：小学校、中学校、高等学校の当該学年の指導内容、指導目標に準ずる教育課程 - 類型Ⅱ：授業の遅れ、学習進度を考慮した、下学年対応の教育課程 - 類型Ⅲ：知的障害の特別支援学校の学習を参考にした教育課程 - 類型Ⅳ：自立活動の目標、指導の手だてが主となる教育課程 ・学年や学部の進級に従って類型ごとの学習が継続されよう、同じ類型の教育課程に携わる教員で構成する類型会を運営している。類型会ではそれぞれの学部における学習内容について共通理解を図り、系統を持たせた学習が展開されるよう取り組んでいる。 ・自立活動は、豊かな生活の実現を目指した学びの場であるため、教師との良好な関係性を土台としながら、健康の保持、心理的な安定、環境（重力・空気・寒暖・食べ物・人など）とのやりとりなどに取り組んでいる。					
特色ある学校行事や部活動	・社会体験学習・校外宿泊学習・修学旅行等の校外行事を通して、公共交通機関や施設を利用し、車椅子で活動する社会経験を積み重ねている。 ・産業現場等における実習は高等部第2・3学年、中学部第3学年を対象に実施、進路講演会では卒業生の体験談などを聴き、卒業後の進路や生活設計を考える学習をしている。 ・積極的に防災教育に取り組み、年間を通じて防災かわせみタイム、避難訓練、ショート訓練を実施し、「自分の身を守る」防災意識を身に付けている。 ・部活動は中・高等部生徒が参加し、運動部・音楽部・美術部があり、年間15日程度、水曜日15:00～15:35に実施している。 ・特体連大会、障害者スポーツ大会（陸上、ローリングバレー・ボッチャ等）の参加に向けた練習を行っている。					
家庭・地域との連携	・交流及び共同学習：高萩小学校、坂戸ろう学園、入間向陽高校、日高高校聖学院大学、駿河台大学 ・小中学校における支援籍学習の実施：7市26校 31名 ・地域連携：日高市社会福祉協議会、高萩公民館、障害者就業・生活支援センター等 ・防災体験プログラムの実施：地域住民・PTAと共同実施のイベント					
進路について	・生活介護事業所を利用するが多いが、企業就労、在宅就労、就労系事業所など多岐に渡っている。 ・高等部進路先は、就労移行支援事業所、就労継続支援B型、生活介護、施設入所。 ・小学部・中学部の児童生徒は、大多数が本校中学部・高等部へ進学し、一部県外国立大学附属の特別支援学校高等部へ進学した。					

(※児童生徒数：R2.5.1現在、進路はR2.3卒業生の状況)

埼玉県立日高特別支援学校～児童生徒の成長物語～



本校のマスコットかわせみ

本校の 特色

◇本校の教育方針

児童生徒の希望、保護者の願いを大切にし、「将来像」の実現に向けた教育活動を展開し、一人一人の可能性を伸ばしていく

◇教育内容の特色

実態に応じた教育課程、防災教育の推進、文化的活動・生涯スポーツの推進
市内小学校、異なる障害種の特別支援学校、県立高校、大学、地域のサークル活動との交流及び共同学習

◇地域との連携

地域・保護者と連携した防災体験プログラムの実施

学 校 教 育 目 標

い の ち 輝 く
ゆ た か に 学 ぶ
と も に 未 来 を

児童生徒の生活目標

明 る く (明朗さ)
正 し く (公平さ)
たくましく (力強さ)

目指す学校像

「児童生徒一人一人の可能性を伸ばし、保護者や地域から信頼される学校」

人と関わり 仲間と共に活動

小・中学部 支援籍学習 (令和元年度実績)

- ・学期1回程度、年3回
- ・小学部25名、中学部6名
- ・7市26校で実施

文化的・体育的活動

- ・ひだか祭
- ・校内作品展
- ・音楽鑑賞会
- ・お話し会(日高市図書館)
- ・体育祭、スポレク集会

食農育学習

- ・野菜の栽培・収穫
- ・調理学習

中・高等部 部活動

- ・年15回水曜日に活動
- ・運動部、音楽部、美術部

中・高等部の 各種挑戦

検定・コンテスト

障害者スポーツ大会

- ・漢字、英語、パソコン検定
- ・写真、ポスター、絵の出版
- ・俳句、標語、人権メッセージの応募
- ・陸上・サッカー・バスケットボール・ローリングバレーボール・ボッチャ大会への参加

小学部 教育目標

- ・生活のリズムを整え、健康に学校生活を送る力を持つ児童の育成
- ・体験を通して、周囲の環境に興味関心を持つ児童の育成
- ・教員や友達とのやり取りを通し、人との関わりを楽しめる児童の育成

中学部 教育目標

- ・基本的生活習慣を定着させ、健康的な生活を送る生徒の育成
- ・興味関心を広げ、主体的に学ぶ生徒の育成
- ・社会の一員としての自覚を持ち、自他を尊重し、協力し合う生徒の育成
- ・人間関係を広げ、自分の気持ちを積極的に、より明確に伝えようとする生徒の育成

高等部 教育目標

- ・【いのち・健康】基本的生活習慣を身につけ、健康な体作りに励む生徒の育成
- ・【自己理解・他者理解=対人関係】自分の役割を果たし、みんなと協力できる生徒の育成
- ・【自立・進路】将来の社会生活に必要な知識や技能を学び、進路についても自ら考え、取り組める生徒の育成
- ・【青年らしい豊かな学習・文化】基礎的な学力を身につけ、生活に生かせる生徒の育成
- ・様々な文化に親しみ、生活を豊かにできる生徒の育成

訪問教育部

- ・健康・安全に配慮し、日常生活に必要な基本的な力の育成
- ・人との関わりの中で自分の感情や意思を表出できる力の育成
- ・興味・関心を広げ、豊かに生活する力の育成

健康・生活を支える専門スタッフ

- ・養護教諭・看護教員
- ・特別支援教育コーディネーター
- ・自立活動コーディネーター

将来の自立に 向けた体験

社会体験学習

- ・小学部 買い物・生活体験学習
工場見学
- ・中学部 買い物・外食・伝統工芸・電車利用体験
- ・高等部 調べ学習・買い物学習
外食・余暇・IT機器体験
公共施設見学
公共交通機関利用

校外宿泊学習・修学旅行

- ・1泊2日、2泊3日の宿泊体験
- ・校外宿泊学習
小5、中2、高1
- ・修学旅行
小6：ディズニーリゾート
中3：横浜ベイエリア
高2：ディズニーリゾート

自己理解から 始める進路指導

社会生活に向けての学習

- ・高等部校内実習 年2回8日程度
- ・就職支援アドバイザーによる実習指導
- ・事業所利用者との合同作業学習
- ・コミュニケーションスキル学習
- ・卒業生講話
- ・キャリア学習ノートの活用

中3から始まる現場実習

- ・中3 2学期に1～2日体験
進路への意識付け
- ・高2・3 3～5日間2回程度
企業就労、福祉就労実習後、進路決定

《深谷はばたき特別支援学校の活性化・特色化方針》
(令和３年度～)

1 学校基本情報

種別	知的障害	学部・学科	小・中・高等部	児童生徒数	(男) 195 (女) 83	計 278
ホームページ	http://www.habataki-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	秩父鉄道秩父線 武川駅下車 徒歩１５分					
教育課程等の特徴	○全学部において担外の自立活動部と連携し、自立活動の時間の指導の充実を図っている。 ○全校共有の発達検査(太田ステージ評価の実施と活用)を行っている。 ○小中高のつながりのあるキャリア教育を進め、１２年間の体系的な指導を図っている。 ○本校独自の教育支援プラン作成マニュアルが完成し、支援プラン作成と活用の充実を図っている。					
特色ある学校行事や部活動	○文化祭(メロンフェスティバル)は、多くのボランティアの協力を得ながら、ステージ発表、作品展示、作業製品の展示及び頒布、交流事業等の内容で行う、本校の一大行事である。 ○高等部の運動部は、特体連等の大会に向け、課業日は陸上競技・サッカー・バスケットボールに週４日取り組み、好成績を挙げている。					
家庭・地域との連携	○学校公開週間を６月と１０月に設定（年２回）している。 ○近隣の小中学校との交流及び共同学習を、双方の学校を訪問しあう形で行っている。 ○高等部作業班が、地域の施設の清掃活動や、地域での作業学習製品の展示及び頒布会を積極的に行っている。 ○約６０名の児童生徒が通常学級支援籍学習を、約５名の児童生徒が特別支援学校支援籍学習を行っている。また、未就学児を対象とした親子教室を実施している。 ○地域の篤志家を中心にした後援会に大きな支援をいただいている。					
進路について	○保護者対象の説明会を早期から実施する等、最新の情報提供を行っている。 ○企業就労は約４０％、福祉的就労が約５５％、進学その他が５％となっている。 [企業就労]製造業(金属加工・食品等)、サービス業(レストラン)、老人介護施設等 [福祉的就労]主に深谷市・熊谷市・寄居町の福祉施設に就労。 ○小学部・中学部の児童生徒は、それぞれ中学部・高等部に進学しています。					

(※児童生徒数：R2.5.1 現在、進路は R2.3 卒業生の実績)

県立深谷はばたき特別支援学校

児童生徒の成長物語



ポニーを活用した教育活動

卒業後
3年間の
追指導

進路実現

高等部

高等部の目標

- ・自立した生活を目指し、仲間や地域社会と積極的に関われる生徒
- ・家庭生活や職業生活に必要な能力を高め、進路実現に向けて実践する生徒
- ・主体的に物事を考え行動に責任を持つ生徒

地域での作業製品の展示と頒布



高等部では企業や事業所と連携し、2週間の現場実習を年間2回(1年生は1回)、中学部は3日間の現場実習を行っています。

中学部

中学部の目標

- ・基本的な生活習慣を身につけ、物事に主体的に取り組む生徒
- ・自分の役割を知り、社会生活に必要なルールに沿って行動できる生徒
- ・友達を思いやり、協力して生活する生徒
- ・先生や友達に相談しながら自分で決めることができる生徒

作業学習

高等部は農作業・メンテナンス・陶芸・木工・手工芸・革工芸の6班。中学部は農作業・陶芸・木工・紙リサイクルの4班で活動。

統一したアセスメントによる客観的な実態把握

12年間の体系的なキャリア教育
基本的生活習慣の確立・社会的マナーの獲得
個に応じた指導、主体的な学び

社会体験



はばたきのアイドル「メロリン」



地域の小・中学校との交流会



小学部

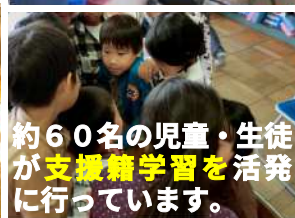
小学部の目標

- ・こころもからだも元気な子
- ・基本的な生活習慣を身につけようとがんばり、意欲的に取り組む子
- ・楽しく、元気に、仲良く遊ぶ子
- ・自分の気持ちや要求を伝えられる子

感動を共有する学校行事



個に応じた指導



約60名の児童・生徒が支援学級学習を充実させています。

早期支援

親子教室の実施
教育相談事業
関係機関との連携

PTA 活動との連携

- | | |
|---------|----------------------|
| [本部] | 理事会だよりの発行 意見交換会の実施 |
| [進路対策部] | 企業及び事業所見学会 進路講演会の実施等 |
| [地域支援部] | 地域保護者交流会 ベルマーク収集 |
| [厚生部] | 親子レクの実施 文化祭への参加 |
| [広報部] | PTA 広報の編集・発行 |

＜＜本庄特別支援学校の活性化・特色化方針＞＞
(令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	知的障害	学部・学科	小・中・高等部	児童生徒数	(男)115 (女) 79	計 194
ホームページ	http://www.honjo-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	JR 高崎線 本庄駅から武蔵観光バス（寄居行）栗崎または小茂田バス停下車 徒歩 8 分 上越新幹線 本庄早稲田駅下車 徒歩 2 2 分					
教育課程等の特徴	・キャリア教育を推進し、キャリア教育の視点を踏まえ、小学部～高等部まで系統性のあるシラバス（育てる力）を活用し、12年間切れ目のない指導支援を展開している。 ・令和元年度より県内県立学校初となる「コミュニティ・スクール」に指定され、教育を学校内だけで完結させるのではなく、地域の教育資源を活用し、自立と社会参加に求められる資質・能力を育成する「社会に開かれた教育課程」を実践している。 ・高等部の教育課程を4つに分け、一人一人が持っている力を最大限に活かし、どの子も伸びる教育を実践している。（職業自立型・職業移行型・生活学習型・基礎学習型） ・毎週木曜日（午前：職業移行型）・金曜日（1日：職業自立型）生徒と教員と一緒に地域の企業、施設等に働きに出る、本特版デュアルシステム（就業体験学習）を実施している。 ・全学部1対1を基本とした、自立活動の時間における指導を全学部で展開している。 ・2020 東京大会に向けて、全校を挙げてオリ・パラ教育を展開するとともに、生涯にわたる多様な学習活動を推進している。					
特色ある学校行事や部活動	・ハートまつり（文化祭）は各学部の普段の学習の成果を発表する。特に、中・高の作業学習で作った製品販売では、地域の方々にも大好評で、外部から多数の来校がある。 ・高等部の運動部は県内でもトップクラスであり、昨年度は、県特別支援学校陸上大会2連覇をはじめ、サッカー・バスケットボールでも上位入賞を果たしている。 ・卒業生には、陸上競技（走り幅跳び）で東京パラリンピック出場候補がいる。					
家庭・地域との連携	・「コミュニティ・スクール」として、学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を推進している。令和元年度は56件の地域等の連携・協働実績がある。 ・学校-地域 win-win プロジェクト実践研究校として、埼玉工業大学等と連携し、ICT 教育を推進する。 ・学校公開を今年度は秋に開催する。 ・近隣学校・施設との交流及び共同学習を各学部で展開している（小：近隣の小学校2校、中：老人ホーム、高：合同部活動の実施）。 ・地元企業、官公庁、福祉施設と連携した本特デュアルシステムを実施している。 ・地元の各種イベントで高等部作業班製品の販売と学校紹介を実施している。 ・学区内の幼児・保護者を対象に、年間10回の就学前早期支援（はーと教室）を開催する。 ・保護者個別支援（ハート相談）、保護者同志の悩みを共有し助け合う「ハートミーティング わいわい」を行い、保護者向け子育て支援の充実を図っている。					
進路について	・高等部卒業後の進路状況は一般就労が2～3割、福祉的就労が6～7割となっている。 【就業体験学習（本特版デュアルシステム）】 ・1年生から多様な働く場を体験し主体的に進路を選択し決定する力を育てる。 ・本庄デュアルシステム推進連携協議会を組織し、官公庁、企業、商工会議所等と連携し進めている。 【企業就労】 製造業（食品、自動車部品）、サービス業（飲食店、小売店）、介護施設等。 【福祉的就労】 県北地域・本庄児玉郡市の福祉施設。 ・小学部・中学部の生徒は、それぞれ中学部・高等部へ進学している。					

（※児童生徒数：R2.5.1 現在、進路は R2.3 卒業生の状況）



県立本庄特別支援学校

～児童生徒の成長物語～

学校ホームページはこちらをクリック



目指す学校像

- 社会的自立を目指し、障害の特性や教育的ニーズに応じた教育を推進する学校
- 地域に信頼される特別支援教育のセンターとしての取組を推進する学校

児童生徒個々の課題やニーズに応じた指導支援 **特色1**

- 本人、保護者、職員で作上げる「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」。
- 外部関係機関と連携した指導支援体制を充実。
- 外部専門家による専門的な指導支援と保護者に対するアドバイス。
- 全児童生徒にアセスメントを実施し、根拠のある指導支援。
- 「太田ステージ」「NG-プログラム」「職業教育総合評価表」等
- 支援を要する児童生徒の改善のために迅速なケース会、カンファレンスの実施。

学び合い、高め合い 助け合うファミリー本 **特色7** 教員集団

- 教員の指導支援の足並みを揃える研修
- お互いの授業を見合い、体験する「授業見学、他学部体験授業」
- 実践を報告、みんなで検討する「事例研究会・授業研究」
- 校内職員を講師とした「自主研修」
- 教材の学び合い「教材教具展」
- 全教員が得意分野を登録し、個々の専門性を有効に活かす「人材バンク」
- 近隣校と学び合う「合同学び合い研修」
- 常に先を見据えた学校づくりを目指す「先進校視察」等

シラバスを活用した系統性のある指導支援の充実 **特色2**

キャリア教育の視点を踏まえた系統性のある「本校独自のシラバス」を作成・活用し、各学部段階における育てる力を明確にし、教育指針・指標としています。

自立活動の時間における指導の充実 **特色3**

お子様の自立に向けて、障害による学習上、生活上の困難を克服するために、必要な、知識・技能・態度を身につけ、心身共に健やかに成長する土台を身につけます。

高等部教育課程の複数化 **特色4**

高等部では教育課程を4つに編成し、生徒一人一人が持っている能力を最大限に伸ばし、**障害の状況に、より即した教育**を実践しています。
「職業自立型」「職業移行型」

各学部の教育はこちら

入学前からサポート

各発達段階に応じた12年間「切れ目のない」指導・支援

卒業後もサポート



就学前

学区内の就学前幼児・保護者を対象に**早期支援**（ハート教室）を年10回開催。
就学前からサポートします。

小学部

小学部低学年
日常生活に関わる基礎的な力を育てます。

小学部高学年
生活に関わる力を育てるとともに、集団への適応に必要な力を育てます。

中学部

小学部で学んだ基礎的な力を生活に応用していく力を育て、社会性、認知、コミュニケーションの力を育てます。
将来に備え作業学習を通して働く力を育てます。

高等部

自立と社会参加に向け、社会性、認知、コミュニケーションを中心に高めます。
働くために必要な力を、学校・現場実習・就業体験学習で身につけます。
教育課程複数化により個々の能力を最大限に伸ばします。

卒業後

就職先に訪問し、指導支援を行い、卒業後も見守ります。

生活支援センターと連携し、仕事を含めた生活支援を行います。

県内県立学校初「コミュニティ・スクール」 **特色5**

学校・家庭・地域との連携

学校との連携
小学校との交流及び合同学習、支援籍学習、高校と合同部活動等

家庭との連携
「ハート相談」、「ハートミーティングわいわい」等の保護者子育て支援の充実等

地域との連携
地元企業、官公庁等と連携した、就業体験学習（本特版デュアルシステム）の実施
「地域と共にある学校」づくりの推進

高等部 運動部の活躍 **特色6**

本校運動部の実績は**県内でもトップクラス**。特別支援学校陸上大会2連覇をはじめ、サッカーやバスケットボール競技においても毎年上位に入賞しています。部活動生のほとんどが初めは運動が苦手でしたが、毎日の積み重ねで運動が好きになっています。
また、陸上競技日本代表として活躍する卒業生もいます。

児童生徒の障害の特性や教育的ニーズに応じた教育を推進し、一人一人が持つ能力を最大限に伸ばす教育を実践します。

《三郷特別支援学校の活性化・特色化方針》
(令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	知的障害	学部・学科	小・中・高等部	児童生徒数	(男)186 (女) 82	計 268
ホームページ	https://misato-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	ＪＲ武蔵野線「新三郷駅」より 徒歩約 25 分					
教育課程等の特徴	・ 障害特性や一人ひとりの実態を踏まえた教育内容。 ・ 高等部は生徒の実態や課題に合わせて教育課程を 3 つに分け、一人ひとりに応じた学習を行っている。(教育課程 A、教育課程 B、重複学級) ・ キャリア教育を基盤に小学部から高等部までの 12 年間を見通した教育に取り組む。					
特色ある学校行事や部活動	・ 中学部の部活動は水曜日に、体力づくりや余暇活動に取り組んでいる。 ・ 高等部も水曜日に部活動（運動部 3、文化部 3）があり、球技部が中心となって県の陸上大会、サッカー大会、バスケットボール大会に出場している。 ・ 全校がひとつになって取り組む行事（入学式、運動会、三陽祭、卒業式）がある。 ・ 宿泊学習に力を入れており、小学部 4 年生から毎年宿泊を伴う行事がある。					
家庭・地域との連携	・ 学校公開を年 2 回実施。 ・ 希望する児童生徒に対して、支援籍学習を実施。 ・ 就学や転学を希望する方々に対して、学校見学会を小・中・高で合計 8 回実施。 ・ 近隣の小学校（瑞木小・立花小）、中学校（栄中）との交流会を実施。 ・ 三郷高校・三郷北高校、杉戸農業高校と毎年交流会を実施。 ・ 地域交流駅伝大会を行い、地域の福祉施設との交流を毎年実施。 ・ センターの機能の一環として、小中学校等への支援や相談、研修等を行っている。 ・ 地域の方々にボランティアとして、さまざまな面で協力を得ている。					
進路について	・ 児童生徒一人ひとりの能力を把握し、適性を見極め、個々の持つ可能性を引き出していくことにより、社会的自立を目指している。その実現に向けて、日々の学習活動や作業学習、校内・現場実習等に取り組んでいる。 【企業就労】 サービス業（小売、飲食）、運輸業（倉庫内作業、ピッキング）等。 【福祉的就労】 三郷市・八潮市・吉川市の福祉施設等に就労。					

(※生徒数：R2.5.1 現在、進路は R2.3 月卒業生の実績値)

2 育成方針（児童生徒の成長物語）三郷特別支援学校



本校のスクールキャラクター
みさとちゃん



学校教育目標「心豊かに学び 主体的に生きる力を育てる」

めざす学校像「仲間を認め合い、絆を深めながら楽しく学べる学校」「家庭や地域と連携し、豊かな体験を通して児童生徒一人一人が自ら学べる学校」「共生社会の実現を目指し、地域のセンターとしての役割を果たす学校」

意欲を育む学校行事
運動会 三陽祭



小学部の目標

元気に遊ぼう
楽しく学ぼう

仲間とともに育ち合おう

- 元気な体をつくる
- 興味・関心を持つ
- 意欲的に学ぶ
- 豊かな人との関わり
- 最後まで努力する

中学部の目標
自分の思いや願いを伝え、
友達と共に活動し、
学校生活を楽しもう

- 基本的生活習慣の確立
- 健康で丈夫な体づくり
- 集団活動での学び合い
- 気持ちの表現
- 意思決定する力

高等部の目標

豊かな人間関係を築き、
生活を切り拓く力を育てる

- 目標をもち意欲的に取り組む力
- 人との関わりを広げる力
- 地域社会に参加する行動力
- 仲間と協力し成し遂げる力
- 最後までやりぬく力
- 学ぶ意欲を高める力
- 経験を増やし生活を高める力

地域の一員と
して笑顔で
主体的に
生きる力

自己実現を図る進路指導

校内実習・現場実習の充実

- 高1は2・3学期に校内実習を行い、3学期は現場実習を行う生徒もいます。
- 高2・高3では、個々の特性や適性を見極めながら、校内実習と現場実習を期間外にも必要に応じて行います。



キャリア教育の観点に基づき、
小学部からの12年間を見据えた学習

障害特性を踏まえた
きめ細かな指導

臨床心理士、作業療
法士等の専門家の指
導を活用

★個に応じた指導・支援の充実を図ります←学校教育目標の達成とめざす学校像の実現に向けて

- 個別的教育支援計画（プランA）、個別の指導計画（プランB）を本人・保護者のニーズを踏まえ作成します。
- 計画にもとづき丁寧に指導・支援します。
- 児童生徒の成長のようす（目標を達成したか）を評価します。
- 成長のようす（評価）を保護者に丁寧に伝えます。
- 指導と評価を一体化し、授業を改善し指導をさらに充実させます。



《宮代特別支援学校の活性化・特色化方針》 (令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	肢体不自由	学部・学科	小・中・高等部	児童生徒数	(男) 78 (女) 65	計 143
ホームページ	https://www.miyayo-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	東武スカイツリーライン「東武動物公園駅」より 2.5km					
教育課程等の特徴	本校では、児童生徒一人一人の心身の障害の状況や、発達の状況に応じて、4つの教育課程（類型）を編成している。訪問教育も実施している 【類型Ⅰ】当該学年の目標・指導内容に準じた教育課程 【類型Ⅱ】下学年の目標・指導内容に一部または全部を替えた教育課程に自立活動を加えたもの 【類型Ⅲ】知的障害の特別支援学校の教科に準じた教育課程 【類型Ⅳ】各教科の内容に替えて、自立活動を中心に学習する教育課程					
特色ある学校行事や部活動	本校文化祭の「わかば祭」や各学部の開催日時で行われる運動集会 社会体験学習、校内宿泊学習、校外宿泊学習、修学旅行などを通して、段階的に経験領域の拡大と社会性の育成					
家庭・地域との連携	学校公開、教育相談、授業体験を実施、近隣の小中高校との交流及び共同学習 近隣農家での農業体験、日本工業大学との本校児童生徒に対応したアプリ共同開発 自立活動公開を実施し、児童生徒の課題等について情報交換					
進路について	児童生徒の卒業後の生活を見据えた12年間の進路指導 進路指導・事業所見学・現場実習の充実 PC技能を活かした企業就労（1割程度） 地域で豊かに生活するための福祉事業所利用（9割程度） ※一昨年は大学進学が1名					

（※児童生徒数：R2.5.1 現在、進路は R2.3 卒業生の実績）

本校の魅力！

子どもたちの主体的な学びをみんなで支える学校を目指しています。

- ・卒業後の進路を見据えて、個々の児童生徒に応じたキャリア教育を展開します。
小学部段階では基礎学力を育て、社会生活に必要な知識や技能の土台を育てます。
中学部段階では様々な体験を重ね、新たなことに挑戦し、自立と社会生活に向けた力を育てます。
高等部段階では可能性を伸ばし、卒業後社会の中で生き生きと暮らすことができる力を育てます。
それぞれの段階に合わせて支援を行います。
- ・児童生徒の一人一人のニーズを大切に、12年間継続してつながって取り組むことを通して、生き生きと暮らすことができる力の育成をしていきます。

バリアフリー温水プール

全天候型グラウンド

（施設・設備）



わかば祭

（学校行事）



本校マスコットキャラクター
とんがり君



※令和2年度においては感染症拡大防止の観点より中止、延期している取り組みがあります。



《学校の教育目標》

生き生きと 心豊かに たくましく

《目指す学校像》

『子供たちの 主体的な学びを みんなで支える学校』－認め合い、学び合い、支え合う－

本校の 特色

- ◇ 本校の教育方針 児童生徒一人一人の自己実現を支える教育の推進
- ◇ 教育内容の特色 児童生徒一人一人の心身の障害の状況や、発達の状況に応じて教育課程を編成
- ◇ 地域との連携 指導実践を集結した肢体不自由教育の発信拠点

行事

- 運動集会は、各学部ごとの開催日時で行われます。
- 文化祭は全校の生徒の交流や地域の方々、保護者の方々が交流を深める機会として、賑わいを見せています。



小学部

- ① 基本的生活習慣を身につけ、健康で安全に生活する。
- ② 集団生活での活動を通して、人とのかかわる楽しさを知る。
- ③ 興味関心を広げ、自ら活動に参加していこうとする意欲を持つ。
- ④ 気づき、考え、わかる楽しさを知る。

支援籍学習 (交流および共同学習)

- 同じ地域に住む同年代の友達と小・中学校で共に学ぶ機会があります。
- 将来社会に出たときに自立する力や自信につながります。



個に応じた支援・指導

- 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を推進するために、教育支援プランを充実させ、合意形成に基づく合理的配慮に努めます。

中学部

- ① 基本的生活習慣を確立するとともに、心身の変化に気づき健康で安全な生活を送れる力を身につける。
- ② 集団生活での約束や役割を知るとともに、信頼と協力の心を持つ。
- ③ 自分の強みを伸ばすとともに、可能性を広げる。
- ④ 基礎学力を広げ、進んで学ぶ力を高める。

自立活動

自立活動は、児童生徒一人ひとりがよりよく生きていくための学習です。他の教科等の学習の基礎となる大事な領域です。

自立活動では、身体のことだけでなく、
「見たり、聞いたり、感じたりして周りのことがわかること」
「身体を健康に保つこと」「情緒の安定にかかわること」
「人と上手にかかわれること」「自分の気持ちを表現すること」
「相手の言うことがわかること」
これらのことも学習します。



自立活動の課題や内容について保護者の方と情報交換や共通理解を図る機会を設定しています。
また、必要に応じて医療機関等と連携を図っています。

高等部

- ① 自己理解を深め、健康で安全に生活できる力をつける。
- ② 社会性を身に付け、自ら思いを伝え、人とかわらうとする力をつける。
- ③ 社会の中で主体的に生きていく力をつける。
- ④ 身につけた知識や技能を活用したり、応用したりする力を高める。

産業現場等における実習

- 高等部1・2・3年では、企業や福祉施設と連携し現場実習を実施します。



宮代特別支援学校は、「つながる みらい」に向けて児童生徒を育てます。

(令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	知的障害	学部・学科	小・中・高等部	児童生徒数	(男)118 (女) 42	計 160
ホームページ	http://www.moroyo-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	東武東上線「坂戸駅」北口からバス＜大橋行き＞ 「苦林」下車 徒歩約 15 分					
教育課程等の特徴	・開校31年目の主に知的障害のある児童生徒を対象とした特別支援学校。 ・小中高12年間を見通した系統的な指導（キャリア教育）の充実をすすめている。 ・高等部では生徒の実態や教育的ニーズに合わせ、全体を10程度の学習グループに分けた課題別学習の時間を設定している。 ・「主体的 対話的で深い学び」を意識した授業づくりを展開している。					
特色ある学校行事や部活動	・児童生徒が活躍する「運動会」、「ゆずの木まつり（文化祭）」が2大行事。 ・宿泊学習、社会体験学習、修学旅行等を通して経験領域の拡大を目指している。 ・高等部、中学部では課外（部）活動を実施。 ・高等部の競技部は特体連陸上大会、水泳記録会、サッカー大会、バスケットボール大会に参加。					
家庭・地域との連携	・PTA夏まつりの開催や毛呂山町社会福祉協議会イベントへの積極的な参加。 ・関係機関との移行支援会議や就労支援センターとの連携を通じた進路支援。 ・医療機関、市町福祉課、障害者相談支援センター、保健センターとの連携・協力。 ・学区域教育委員会連絡協議会、学区内コーディネーター連絡会の開催。					
進路について	・進路先は企業就労が2～3割、福祉的就労等が7～8割となっています。 【企業就労】サービス業（スーパーマーケット、レンタル）、製造業（食品）など 【福祉的就労】坂戸、鶴ヶ島、毛呂山等の福祉施設（作業所、就労支援） ・原則として卒業後3年間にわたりアフターケアを実施しています。 ・小学部・中学部の生徒は、それぞれ中学部・高等部へ進学しています。					

(※児童生徒数：R2.5.1 現在、進路は R2.3 卒業生の状況)

本校の魅力！

一人一人を大切にする、専門性の高い、児童生徒・保護者・地域と共に生きる、開かれた信頼される学校

私たちは、一人一人を大切にする指導の充実のために
児童生徒をよく知り、互いに学び合い、「わかる授業」づくり に取り組んでいます。

- 1 児童生徒の教育的ニーズに応じた指導を充実させています。
- 2 児童生徒の健康と生命を守る安心安全な学校づくりを推進しています。
- 3 特別支援教育を担う教員としての専門性を高める研究・研修を充実させています。
- 4 保護者や地域との積極的な連携と特別支援教育のセンター的機能を発揮します。



ゆずの木まつり（文化祭）ステージ

2 育成方針（児童生徒の成長物語）



埼玉県立毛呂山特別支援学校

学校教育目標

明るく 仲よく たくましく

目指す学校像

一人一人を大切にする、専門性の高い、児童生徒・保護者・地域と共に生きる開かれた信頼される学校

重点目標

- 1 児童生徒の教育的ニーズに応じた指導の充実
- 2 児童生徒の健康と生命を守る安心安全な学校づくりの推進
- 3 特別支援教育を担う教員としての専門性を高める研究・研修の充実
- 4 保護者や地域との積極的な連携と特別支援教育のセンター的機能の推進

家庭・地域との連携

- PTA活動
- 関係機関と連携した進路支援
- 医療機関・福祉機関との連携・協力
- 学区内コーディネーターとのネットワークの構築
- ボランティアの養成と活用

小学部

- ① 基本的な生活習慣を身につけ、生活するための基礎的能力を身につける。
- ② 基礎的な運動能力を高め丈夫な体を作る。
- ③ 物事を認識する力や感覚を身につけるとともに、感情を豊かにする。
- ④ 人との関わりを通して、より自他を意識できるようにする力を育てる。
- ⑤ 学校生活全般を通して勤労意欲を育てる。

中学部

- ① 基本的な生活習慣の確立をめざす。
- ② いろいろな活動を通して健康の保持増進と体力の向上をめざす。
- ③ 興味・関心を深め、認識力を高めるとともに、豊かな感情を育む。
- ④ 人との関わりを広め、友達と一緒に取り組む力を伸ばす。
- ⑤ 作業学習を通して、働くことへの興味関心を高める。

研究の取り組み（令和2年度）

全校研究テーマ

「新学習指導要領 主体的 対話的で深い学びを意識した授業づくり」 ～体育～

高等部

- ① 基本的な生活習慣を確立し、自立した生活をおくるために必要な力を育む。
- ② 健康でバランスの取れた身体づくりと基礎体力の向上をめざす。
- ③ 認識力を高め、自分で考えようとする意欲と物事に感動する心を育む。
- ④ 友達や集団との関わりを豊かにするとともに、互に尊重しあい協力できる力をつける。
- ⑤ 勤労意欲を高めるとともに、卒業後の進路を考える。

保護者・地域から信頼される、開かれた学校づくりを推進しています

スクールのマスコット
「ゆずの木マン」



《和光特別支援学校の活性化・特色化方針》
(令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	肢体不自由	学部・学科	小・中・高	児童生徒数	(男)61名 (女)78名	計 139 名
ホームページ	http://www.wako-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	東武東上線和光市駅南口より 「西大和団地」「司法研修所」 行き乗車 バス停「西大和団地」下車 徒歩7分					
教育課程等の特徴	・多様化する児童生徒のニーズに柔軟に応えられる、複数の教育課程の整備。 ・丁寧な実態把握による一人一人の主体性を育む指導。					
特色ある学校行事や部活動	・全校一丸となって取り組む文化祭。 ・校外学習をはじめとした体験活動による経験の拡がりを重視。 ・高等部・中学部では、実態に応じて陸上競技、ボッチャなどのスポーツ大会に出場するなど、卒業後の生活をより豊かにするための活動をしている。					
家庭・地域との連携	・学校見学を小・中学部5回、高等部2回実施。 ・昨年度は、34名の児童・生徒が、近隣の小中学校と支援籍、交流及び共同学習を行った。 ・高等部においては、和光国際高校、和光高校と交流学习を行っている。 ・和光市社会福祉協議会からの依頼で、地域の中学校での『福祉共育』の授業で高等部生徒が講演。 ・文化祭では、地域の就労支援施設の出店がある。					
進路について	・進路を見据えて、進路に関する学習、産業現場等における実習の実施。 ・例年の就職割合は1割未満。施設などの利用が9割強となっている。 ・生徒の実態によっては大学等への進学者がいる年度もある。 主な進路例 ＜企業就労＞事務系（PC、書類の整理等）。(R1年度は実績なし) ＜福祉的就労＞さいたま市、戸田市、朝霞市、志木市、富士見市、ふじみ野市、三芳町、所沢市の福祉施設に就労。 ＜進学＞4年生大学、短期大学、専門学校。(R1年度は実績なし) ・例年、小学部・中学部の児童・生徒の大半は、中学部・高等部へ進学する。 スクールキャラクター和光つくし 					

(※児童生徒数：R2.5.1 現在、進路は R2.3 卒業生の実績)



和光特別支援学校 ～自分らしく、豊かに生きる力を育む学校～

児童生徒の成長物



本校の特色

本校は昭和 52 年創立 44 年目を迎える肢体不自由特別支援学校
すべての教育活動に「自立活動」の視点が盛り込まれます

授業の充実

丁寧に実態把握を行い、一人一人に応じた指導を大切に
し、各教科、自立活動などの
学習をしています。PDCA サイ
クルをもとに
常に授業の改
善を行っています。



体験活動の充実

児童生徒の生活経験を掘げら
れるよう、どの学年において
も体験活動を取り入れ、児童
生徒の学びにつなげていま
す。



医療的ケアの充実

経管栄養、吸引、吸入、導
尿、酸素療法を必要とする児
童生徒が学んでいます。学習
環境が整ってきたことで、教
室でケアが受
けられること
も増えてき
ました。



学校教育目標

- ・豊かな表現力を育てる(表現力)
- ・いきいきと生活する力を育てる
(自立・自己決定)
- ・すすんで学ぶ習慣と基礎的な学力を
培う(学習)
- ・協力し合い、人と関わる力を育てる
(仲間意識・社会性)

類型Ⅰ
小中学校・高等学校の各学
年に準ずる教育課程

類型Ⅱ
小中学校・高等学校の目
標・内容の一部又は全部
を前学年に替えて学習す
る教育課程

柔軟に指導内容を選択

類型Ⅳ
各教科の内容の一部又は
全部に替えて、自立活動
を主として学習する教育
課程

類型Ⅲ
各教科の目標・内容を知的
特別支援学校の各教科の目
標・内容に替えて学習する
教育課程

類型Ⅰの目指す児童生徒像

		小学部	中学部	高等部へ	
		A段階	B段階	C段階	D段階
類型Ⅰ・Ⅱ	自立・自己決定	豊かな感情をもち、 知りたいことがたくさんある子	自ら考える子	自分のやりたいことを見つける子	目標の実現に向かって取り組む子
	社会性・仲間意識	他者とのかかわりを楽しむ子	他者の気持ちがわかる子	協力し合う子	自他を認め合う子
類型Ⅲ	自立・自己決定	豊かな感情をもち、 表現できる子	自信をもって生活する子	自分で考える子	学んだことを活かす子
	社会性・仲間意識	他者に関心をもつ子	他者とのかかわりを楽しむ子	他者の気持ちがわかる子	協力し合う子
類型Ⅳ	自立・自己決定	豊かな感情をもつ子	感情を表現する子	自信をもって活動する子	もてる力を活かして物事に取り組む子
	社会性・仲間意識	他者を意識する子	他者に関心をもつ子	他者とのかかわりを楽しむ子	他者を信頼できる子

※令和3年度に向け、身につけたい力として再検討しています

<<和光南特別支援学校の活性化・特色化方針>>
(令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	知的障害	学部・学科	小学部 中学部 高等部	児童 生徒数	(男)222 (女) 92	計 314
ホームページ	https://wakominami-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	東武東上線和光市駅よりバス5分 西大和団地下車徒歩約10分					
教育課程等の 特徴	・児童生徒の知的障害の状態や他の障害を併せ有するなどを考慮し、指導の可能な内容を精選した教育課程・指導計画を作成している。 ・小中高の段階を踏まえた継続的指導を行う。①望ましい周辺生活の確立 ②円滑な集団・社会的な活動 ③職業・家事に携わる資質の涵養 ④就労に係る体験的学習機会の確保 ・高等部教育課程の複数化を実施するにあたり、これまでの課題別学習との整合性を保ちながら学習内容を整備している。 ・「和光南スタンダード」を基に、全教職員が児童生徒の的確な実態把握と適切な指導を行うための専門性の向上に取り組んでいる。					
特色ある 学校行事や部 活動	・全校一丸となって取り組む学校行事。運動会・文化祭（たけのこ祭） ・宿泊学習（遠足・修学旅行含む）や社会体験学習等で経験領域を拡大。 ・高等部に自主通学生徒を対象にした部活動（球技部）を設け、朝・放課後・土曜日に練習を積極的に実施。 令和元年度、男子は県特体連サッカー大会において優勝を果たした。					
家庭・地域 との連携	・懇談会、保護者会、授業参観、土曜授業を年間複数回実施して学校を公開する。 ・文化祭（たけのこ祭）では、PTAと協力して販売等を実施。 ・近隣小中高校との交流会の実施。また、希望者は支援籍学習を実施して地域の児童生徒と交流している。 ・高等部は企業や事業所・施設の協力を得て、職場見学や現場実習等を実施して、望ましい就労観や勤労観を修得する。 ・自閉症、行動問題等の事例について、専門家・福祉・医療等外部関係機関と積極的に相談関係を構築して連携している。					
進路に ついて	・企業就労12%、福祉的就労81%、その他7%。 【企業就労】 清掃業、小売業、印刷業、農園芸業、製造業、リネン業、運送業、飲食業、倉庫業等 【福祉的就労】 （埼玉県）戸田市・朝霞市・新座市・和光市・川口市・さいたま市・志木市・所沢市等の福祉施設に就労 （東京都）東久留米市・清瀬市等の福祉施設に就労 【小・中学部】 小学部・中学部の児童生徒は、本校の中学部・高等部へ進学					

（※児童生徒数：R2.5.1現在、進路はR2.3卒業生の状況）

2 育成方針（児童生徒の成長物語）

本校の 特色

- ・ 高等部「教育課程の複数化」を行い、生徒の実態に合った3つの教育課程（重複、類型Ⅰ、類型Ⅱ）を編成・実施している。
- ・ 特別非常勤講師を4名配置し、専門分野の視点から、児童生徒の発達課題に沿った指導上の助言を日常の指導に活かすと共に、保護者からの相談にも丁寧な対応を行う。＜＜「公認心理師」「言語聴覚士ST」「作業療法士OT」「理学療法士PT」＞＞
- ・ 「和光南スタンダード」を基に、全教職員が的確な実態把握と適切な指導ができる専門性の向上に取り組む。

学習指導・生活指導

- ・ 保護者面談、発達検査等を基に教育支援プランA・Bの作成。
- ・ 異なる障害特性や程度に応じた指導の工夫。
- ・ 指導の継続性を考慮した学部学級経営案の作成と研修の実施。
- ・ 特別非常勤の活用と外部講師を招聘して研修の実施。

進路指導

- ・ 生活単元学習で進路学習の実施。
- ・ ハローワークや企業との情報交換会、事業所訪問等で多面的に情報収集。
- ・ 行政、施設、関係諸機関との連絡協議会を年2回実施。
- ・ 就職後アフターケア（就労支援センターと連携）実施。就職後の定着率100%を目指す。

高等部

- ・ 中学部における目標をさらに充実発展させる。
- ・ 勤労にかかわる体験的な学習の指導を適切に行うようにし、働くことや創造することの喜びを体得し、望ましい勤労観や職業観を養う。

自立と 社会参加へ



小学部

- ・ 心身諸機能の調和的発達の伸長。
- ・ 基礎的な生活習慣を身につける。
- ・ 集団へ参加する能力や態度を養う。
- ・ 社会生活に必要な基礎的知識と技能を養う。

中学部

- ・ 小学部における目標をさらに充実発展させる。
- ・ 将来の家庭生活、社会生活に必要な知識と技能を身につける。

センター的機能

- ・ コーディネーターを派遣し研修や相談の実施。
- ・ 地域事例研修会の実施。
- ・ 公開研修、コーディネーター研修会の実施。毎年約100名が参加。
- ・ ボランティア養成講座の実施

支援籍学習

- ・ まつり、運動会等の学校行事へ参加。
- ・ 各教科・特別活動等の授業に参加。

開かれた学校づくり

- ・ 他校との交流教育の実施。
実施校例：
○朝霞市立第八小学校
○和光市立北原小学校
○和光市立和光第二中学校
○県立和光国際高等学校
- ・ 家庭や地域と連携した防災対応。（和光市福祉避難所、避難訓練、引取訓練、一斉メールやホームページの活用）
- ・ 各種研修会や講演会の公開。

和光南特別支援学校は、地域の教育力と連携しながら、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を実施し、「生きる力」を育成します。